

5. 資料

資料 1

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

1. 教育理念			
1-1. 教育理念			
	小項目	評価の視点	根拠となる資料（エビデンス）
1	教育理念とそれに基づく育成人材像が明確であるか。	専門学校設置基準に沿った、教育スローガン（教育理念）を明文化しているか。	学則、入学案内、学校運営計画への明記
2. 基本項目			
2-1. 募集			
	小項目	評価の視点	根拠となる資料（エビデンス）
1	募集要項等により入学者選抜について明確に規定しているか。	専門学校設置基準に沿った、広報媒体などに記載され、幅広く周知しているか。	募集要項、ホームページ等への明記
2-2. 運営			
1	理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか。	定期的全体会議が行われ、法人としての運営・事業計画が組織的に行っているか。	学校運営計画への明記
2	人事・給与に関する制度を整備しているか。	就業規則、給与規定等は各学校の原則に基づき整備され、周知しているか。	就業規則、給与規定、人事考課制度
3	意思決定システムを整備しているか。	組織図に準じた運営を行い、意思決定を円滑に行う組織となっているか。	法人組織図、理事会議事録、校務分掌一覧
4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	各年度毎、業務の内容が検討し配置しているか。	学内ネットワーク図、学校運営計画
2-3. 財務情報			
1	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	HPや学内閲覧用冊子などに記載され、幅広く周知しているか。	資金収支、消費収支決算書、貸借対照表、財産目録のホームページへの公開

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

3. 教育活動			
3-1. 教育目標・人材育成像			
	小項目	評価の視点	根拠となる資料（エビデンス）
1	身につける能力を具体的に定めているか。	専門学校設置基準に沿った、教育スローガン（教育理念）を明文化しているか。	学則、入学案内、学校運営計画への明記
2	身につける能力がファッション業界のニーズに合っているか。	企業の意見を集約する方法を持ち、時代に合った情報を得られる組織を整備しているか。	各学科概要、教育課程編成委員会議事録
3	養成しようとする職種が具体的に定めているか。	専門学校設置基準に沿った、育成する人材像を明文化しているか。職種と学科の特徴が明確か。	各学科概要、入学案内
4	養成しようとする職種がファッション業界のニーズに合っているか。	求人数との整合性、企業の意見を反映しているか。	各学科概要、教育課程編成委員会議事録
5	上記について過不足ないカリキュラムが編成されているか。また特色を持っているか。	シラバスにおける科目編成及び授業時間は適正であるか。学校独自の特色を出す工夫を行っているか。	カリキュラム、教育課程編成委員会議事録
3-2. 活動方針・計画			
1	ファッション分野の認定校として目的・目標を、学生、教職員へ明確に公表しているか。	目的の誤差をなくすため、定期的に会議・講演を行い、議事録を残し周知しているか。	運営計画への明記、会議報告書
2	ファッション分野の認定校として目的・目標を、社会に広く公表しているか。	広報媒体（パンフレットやHP）などに記載し、幅広く周知しているか。	入学案内、ホームページ等への明記
3	ファッション分野の認定校として目的・目標に沿った産学連携（インターンシップ）を行っているか。	連携授業および一般科目において、認定要件の要である企業連携を適切に計画しているか。	カリキュラム、インターンシップ報告書
3-3. 教育課程編成委員会			
1	教育課程編成委員会等の委員構成が適切であるか。	委員所属企業と学科の整合性を考えた委員構成にしているか。	教育課程編成委員会規則、教育課程編成委員会議事録
2	ファッション業界を熟知した委員が有効な提言を行っているか。	委員の所属企業における専門性、また委員が学科の特性を考慮した提言を行っているか。	教育課程編成委員会議事録
3	教育課程編成委員会が適宜開催され、その結果が教育課程の内容に反映しているか。	形式的な会議となっていないか。委員会の提言を授業においてどの程度反映したか。	教育課程編成委員会議事録、カリキュラム

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

3-4. 連携授業と連携教育			
1	学科の目的に沿った企業および講師と連携しているか。	連携企業の業務内容や講師の職種などが適切であるか。	連携協定書
2	科目創設から単位認定まで企業等の意見を十分に反映しているか。	連携授業の構想など大枠において企業側の意見を反映しているか。	連携協定書、教育課程編成委員会議事録、カリキュラム
3	連携授業が実習を伴い、企業側が成績評価に参画しているか。	成績評価への企業の関わりの度合いと評価が適切か。	連携協定書、連携授業計画書、連携授業評価書
4	連携授業の目的を達成するための実習期間や時間を十分に確保しているか。	実習期間、人数などが明確になっているか。それが適切であるか。	連携協定書、連携授業計画書
5	連携授業とその他のカリキュラムを体系的に編成しているか。	連携授業とその他の科目が科の目的に即したつながりを持っているか。	連携協定書、連携授業計画書、カリキュラム
6	企業からの意見を反映させたカリキュラムにしているか。	主として授業運営、使用教材について企業側の意見を反映しているか。	教育課程編成委員会議事録、企業アンケート、カリキュラム
7	学生のニーズを反映させたカリキュラムを導入しているか。	科のカリキュラムの目的に沿った学生の意見を反映させているか。	学生満足度アンケート、学生授業評価、カリキュラム
8	連携授業の理念、目的を学生に周知、教育しているか。	企業講師を招く目的を明確にして、学生へ授業の意義を伝えているか。また取組みを促しているか。	学生満足度アンケート、学生授業評価
9	連携授業受講のための社会人としてのマナー教育を行っているか。	挨拶、ビジネスマナー等企業において最低限必要のマナー教育を実施の上、連携授業が行われているか。	連携授業計画書、カリキュラム
10	連携授業に必要な設備を自校で整備、あるいは連携企業の設備を利用することで教育効果をあげられるようにしているか。	主として実習に必要な設備を企業と学校が協議の上、整備しているか。	連携協定書、連携授業計画書
11	10についてその人数編成が適切であるか。	実習効果をあげるため、人数に応じた台数が整っているか。	連携授業計画書

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

3－5．目標の設定			
1	理念等に沿ったファッション教育編成方針を定めているか。	具体的な人材育成像（職種）等について明文化しているか。	連携協定書、連携授業計画書
2	学科、学年に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科、学年ごとの教育到達レベルを明確化しているか。（指導案など）	連携協定書、連携授業計画書
3－6．教育内容・評価等（共通項目）			
1	ファッション感覚を涵養する教育を行っているか。	服飾史、文化、芸術、アート、市場調査など、ファッション感覚向上の教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
2	デザイン素材の理解を向上させる教育を行っているか。	色彩、素材、商品知識など服を理解するための基礎教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
3	コミュニケーション力と協働力を向上させる教育を行っているか。	I Tスキル、グループワーク等の社会人として必要なコミュニケーションツールとその活用技術についての教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
4	プレゼンテーション力を向上させる教育を行っているか。	自分の考えをまとめ、発表内容に説得力を持たせる教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
5	グローバルな感覚を向上させる教育を行っているか。	語学、文化などグローバル感覚を向上させる教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
6	企業倫理、法令遵守についての教育を行っているか。	ファッション業界およびビジネスに関する知識、慣例、基礎的な法令についての教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
3－7．教育内容・評価等（個別項目）設置学科に応じて評価項目を選択する			
1	作品、商品イメージを具現化するための教育を行っているか。（企画デザイン職）	イラスト、C G等によるデザイン表現を行う教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
2	デザイン素材について応用的な教育を行っているか。（企画デザイン職）	企画デザイン職として必要なテキスタイルや素材加工に関する技術、知識に関する教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
3	人間工学に関する教育を行っているか。（企画デザイン職）	人体の構造について理解し、計測を行い、デザインする教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

4	縫製に関する知識と技術を教える教育を行っているか。（企画デザイン職）	素材に合わせた縫製方法や機器の特徴を理解し、縫製工程を把握する教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
5	パターン作成の応用的な教育を行っているか。（企画デザイン職）	生産効率を意識した、デザイン性の高いオリジナルのパターンメイキング教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
6	デザイン素材について応用的な教育を行っているか。（技術職）	技術職として必要なテキスタイルや素材加工に関する技術、知識に関する教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
7	作品、商品イメージを具現化するための教育を行っているか。（技術職）	イラスト、CG、試作等によりデザイン表現を行う教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
8	パターン作成の応用的な教育を行っているか。（技術職）	CAD、量産パターン等、生産を意識した、応用的パターン作成教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
9	パターン作成の専門的な教育を行っているか。（技術職）	デザインを基に、生産効率を考慮した正確なパターンメイキングをする教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
10	人間工学に関する教育を行っているか。（技術職）	人体の構造について理解し、機能性の高いパターンメイキングを行う教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
11	作品、商品イメージを具現化するための教育を行っているか。（縫製職）	オートクチュールに必要な縫製やパターン作成に関する教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
12	根気が必要な作業に集中力を持って取り組む教育を行っているか。（縫製職）	縫製について長時間、丁寧に行うことができる素養を高める教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
13	接客力を身につける教育を行っているか。（販売職）	ロールプレイングなど接客に必要な知識、実技および接客マナーを学ぶ教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
14	VMDに関する教育を行っているか。（販売職）	コーディネートやショウイングディスプレイについて学ぶ教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
15	商品管理に関する教育を行っているか。（販売職）	商品の取り扱いやショップマネジメントについて学ぶ教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

16	店頭情報収集に関する教育を行っているか。（販売職）	同一カテゴリー、競合ブランドなどの市場情報について学ぶ教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
17	店舗計数管理に関する教育を行っているか。（販売職）	販売計画を立案する教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
18	ブランドマネジメントに関する教育を行っているか。（ビジネス総合職）	ブランドの企画から生産、販売、広報までブランドマネジメントに関する総合的な教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
19	店頭情報収集に関する教育を行っているか。（ビジネス総合職）	社会情勢、流行など時代を読み、ブランドマネジメントに活かす教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
20	応用的コーディネートに関する教育を行っているか。（スタイリスト職）	スタイリストとして必要な専門的色彩、アイテム、小物等についてのコーディネートについて学ぶ教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
21	広汎なファッション分野に関する教育を行っているか。（スタイリスト職）	音楽、食、その他広義のファッションについて学ぶ教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
3－8．特色ある教育			
1	学校独自の特色ある教育を行っているか。	教育理念に基づいた特色ある授業が実施され、その教育が適切であるか。	シラバス、カリキュラム
3－9．教育設備			
1	学生が身につけるべき能力を想定したファッション関連設備を備えているか。	C G、C A D等のデザイン、技術関連機器を整備しているか。	備品台帳

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

4. 学習成果			
4-1. 就職・就職率			
	小項目	評価の視点	根拠となる資料（エビデンス）
1	就職内定率の向上を図っているか。	企業説明会、個別指導等を行っているか。就職資料室の設置をしているか。	就職一覧、年間行事予定表
2	科の目的に沿った企業へ就職しているか。	学科ごとの内定企業、職種を明示した資料を整えているか。	学科概要、就職一覧、就職者実数
3	科の目的に沿った職種に就職しているか。	学科別の内定者リストにおいて職種を明示した資料を整えているか。	学科概要、就職一覧、就職者実数
4	継続した求人を得ているか。（景気変動等の要素を除く）	年間求人票を就職別に適切に保管しているか。	年度別求人票一覧
4-2. 資格・資格取得率			
1	科の目標、カリキュラムに相応しい検定試験に取り組んでいるか。	職種に応じた検定、級を目標として定め、取り組んでいるか。	学科概要、学校運営計画の中での目標値の設定、検定一覧、合否一覧、全国合格率
4-3. 成績評価・単位認定等			
1	ファッション教育に不可欠な感性について評価基準を定めているか。	感性を養う為の教育をどのような方法、評価基準で行っているか。	教務規則、評価基準書、成績判定会議、卒業・進級判定会議
4-4. 学習成果			
1	学生が無理なく、意欲をもって単位を取得できる配慮ができているか。	出席管理、進捗状況を担任が把握し、事務部門と状況を共有しているか。	年間行事予定表
2	授業アンケート等を実施し意見を反映しているか。	学生評価がデータ化され、担当教員も把握しているか。カリキュラムに反映しているか。	学生満足度アンケート
4-5. 卒業生社会的評価			
1	卒業生の社会的評価を把握しているか。	企業等へのアンケートにより卒業生の評価を把握する体制が整っているか。	学生採用アンケート

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

5. 教員の質の保証			
5-1. 教員・教員組織			
1	科目の目的に沿った、知見、感性、技術を持った人材を確保しているか。	アパレル業界全般の知識から、専門分野に必要なスキルまで兼ね備えた人材を登用しているか。	教職員履歴書、カリキュラム
2	専任、非常勤の人数および担当科目が明確であるか。	専門外の講座を担当する等の教育の質を低下させる授業編成がないか。	教職員履歴書、カリキュラム
3	教員の組織体制を整備しているか。	主として科、科目間の連携が確保できる組織であるか。	校務分掌、法人組織図
5-2. 教員評価			
1	学生に充分理解のできる授業であったか。	段階的、効率的成果の挙がる授業カリキュラムを設定しているか。	学生満足度アンケート、学生授業評価
2	学生の相談にしっかりと対応できたか。	円滑な学生生活への助言をしているか。	学生満足度アンケート、学生授業評価、人事考課表
5-3. 教員研修			
1	研修目的を明確に定めているか。	教授力の向上、専門性の追求等、目的を明確化しているか。	教員研修規定
2	ファッション関連企業等と連携した専門的な研修を実施しているか。	企業等と連携し、組織的な研修を行っているか。	教員研修規定、教員研修計画、研修報告
3	研修形態（頻度、期間、人数など）が適切であるか。	受動的研修が主になっていないか。また研修内容や形態が適切であるか。	教員研修規定、教員研修計画、研修報告

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

6. 学生支援			
6－1. 就職			
1	ファッション関連企業からの求人を開拓し、適切な就職アドバイスを行っているか。	新規求人企業の数及び職種の明示。学生への公開方法が適切であるか。	求人一覧、企業訪問報告書
2	学生数に応じた求人数や職種が確保しているか。	学科の目標とする職種、学生数に対して適切な数、質の求人資料を提示しているか。	求人一覧
3	求人を適切に学生へ公開し、応募を促しているか。	公開方法が明確か、広く学生に浸透し、内定の成果をあげているか。	求人一覧、企業訪問報告書
4	キャリアカウンセラー、就職資料など各校の理念に基づくキャリア教育施設が整備しているか。	常設の施設、授業を含む、講座や相談窓口を設置しているか。	就職相談室の設置の有無
6－2. 中途退学への対応			
1	職業実践専門課程の質を維持しながら、退学者を低減する取り組みを行っているか。	定期的な学生指導、相談窓口の設置をしているか。	退学率の公表
2	退学者低減への取り組みは効果を挙げているか。	年度毎に休・退学者を公開しているか。	退学率の公表
6－3. 学生相談			
1	学生相談に関する体制を整えているか。	窓口は常設であるか。また専門の職員は配置しているか。	カウンセリング室等の設置の有無
6－4. 学生生活			
1	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	学校独自の奨学金制度の有無。他機関の制度利用についての窓口はあるか。	奨学金制度の有無
2	学生の健康管理を行う体制を整備しているか。	年度毎に行う学校設置基準に沿った健康診断を行っているか。	保健室の有無、健康診断実施報告書
3	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか。	学校が寮を運営、もしくは外部幹旋機関を利用できる体制が整っているか。	学生寮設置の有無

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

4	課外活動に対する支援体制を整備しているか。	サークル等があるか、また活動費を確保しているか。	クラブ活動の有無、傷害保険加入の有無
5	留学生に対する支援体制を整備しているか。	留学生の学習、生活全般について支援する体制が整っているか。	留学生相談室等の有無
6－5．保護者との連携			
1	保護者との連携体制を整備しているか。	時期を設定し、書面で近況を知らせる体制が整っているか。	保護者会等の設置の有無
6－6．卒業生・社会人			
1	卒業生への支援体制を整備しているか。	同窓会組織があるか、学内の施設等を提供できる体制は整っているか。	同窓会組織等の設置の有無

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

7. 教育環境			
7-1. 防災・安全管理			
1	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか。	設備は万全であるか。防災訓練の実施。責任者の有無。	防火管理維持台帳、消防計画書
2	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。	定期的に外部での防災管理者講習会が行われ、防災管理者が参加しているか。	防火管理維持台帳、消防計画書

産学連携によるリアルな実践教育 ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価 点検評価項目

8. 内部質保証			
8-1. 関係法令			
1	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	学内自己評価点検表を作成する際、遵守しているか。	理事会議事録、職員会議議事録
8-2. 個人情報			
1	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか。	個人情報は外部に漏洩されないよう厳重に保管され、維持できる体制を整えているか。	個人情報保護規定
8-3. 学校評価			
1	自己評価の実施体制を整備し、評価を公正に行っているか。	自己評価の実施方法・時期・回数を適切にしているか。	自己点検及び評価等実施委員会規定、自己点検及び評価等実施委員会議事録
2	自己評価結果を公表しているか。	ホームページでの公表は行っているか。	ホームページ等での公表の有無
3	学校関係者評価委員の構成が客観的な評価をできる構成であるか。	構成員に偏りはないか。内容は適正に行っているか。	学校関係者評価委員会規則、学校関係者評価委員会名簿
4	ファッション分野の評価を前提とした企業、団体に委員を委嘱しているか。	企業名、部署名を明示、構成員のバランスは良いか。	学校関係者評価委員会規則、学校関係者評価委員会名簿
5	自己点検・評価と学校関係者評価に乖離はないか。	学校関係者評価の意見等を自己評価、点検に反映しているか。	学校関係者評価委員会規則、学校関係者評価委員会議事録
6	自己点検・評価と学校関係者評価の向上に努めているか。	自己点検・評価及び学校関係者評価の効果を具体的に明示しているか。	学校関係者評価委員会規則、学校関係者評価委員会議事録
7	自己点検・評価及び学校関係者評価を公表しているか。	HPや学内閲覧用冊子などに記載し、幅広く周知しているか。	ホームページ等での公表の有無
8-4. 情報公開			
1	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	HPや学内閲覧用冊子などに記載し、幅広く周知しているか。	ホームページ等での公表の有無、職業実践専門課程申請書類様式4（財務諸表一式、就職率、退学率）

資料 2

ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を
推進する事業

第三者評価（ファッション分野）試行要項

第三者評価試行の概要

この事業は実施機関（学校法人文化学園文化服装学院）が文部科学省委託事業「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業」の中心事業として実施するファッション分野の職業実践専門課程認定専門学校（以下「認定校」という）を対象として実施する第三者評価試行の手順を示したものです。

試行は、昨年度の同事業で策定された「ファッション分野における第三者評価点検評価項目」によって実施します。

今回のモデル事業は、上記評価項目に基づき、評価を受審する認定校が自ら点検し、作成した所定の「自己点検・評価報告書」に基づき行います。

評価結果は、成果報告書として公表しますが、評価受審校が自ら公表することによって、当該学校の教育活動への理解と信頼の向上が期待されています。

専門学校が行う実践的な職業教育に加え、ファッション分野における教育活動に比重を置いた特徴的な第三者評価を行うことにより、評価受審校の卒業生が活躍する職種等において、いま求められている人材像や必要とされている知識・技術、技能がその学校の教育内容に、的確に反映されているかを重要視して評価を行います。

試行は、職業実践専門課程の教育の質の保証と向上を目指すものですが、新たな高等教育機関が制度化された際に必須となるであろう第三者評価について、そのシステムを構築し、新たな高等教育機関への移行に資することができればと考えています。

平成 27 年 7 月

I 第三者評価の目的と基本方針等

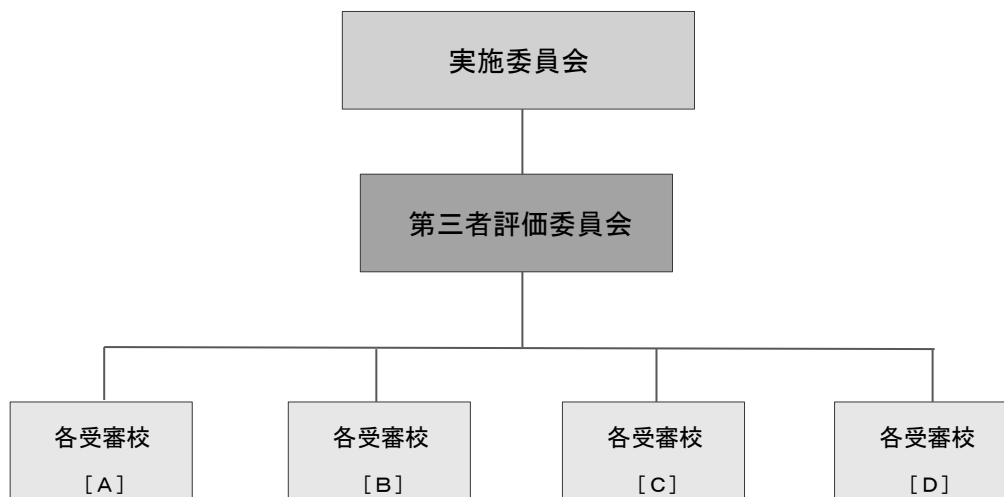
1 第三者評価事業の目的

- (1) ファッション系認定校の教育の質・水準の明確化
- (2) ファッション系認定校の教育の質・内容の向上
- (3) ファッション系認定校の社会的認知の向上
- (4) ファッション系認定校（学）とアパレル系企業（産）の相互理解の向上
- (5) ファッション系認定校選択への利便性提供

2 評価基本方針

- (1) 「ファッション分野における第三者評価点検評価項目」に基づく評価
- (2) 自己点検・評価に基づき、「教育活動」を重視する評価
- (3) 識者、業界関係者も含む評価
- (4) 透明性の高い評価

II 評価の実施体制



1 実施委員会

第三者評価事業の運営全般を担当し、事業実施機関が選任する委員で構成します。

2 第三者評価委員会

業界関係者 1 名、ファッション団体関係者 1 名、教育についての専門家・学識者 1 名、

専門学校関係者1名で構成することをし、委員の選任は実施委員会で行います。

3 審査会

実施委員会が選任した第三者評価委員会委員4名程度で実施します。

4 研修の実施

第三者評価事業を円滑に進めるために、評価委員に対しては研修を実施し、第三者評価モデル事業に関する知識習得や評価実務の訓練を行い、実際の評価に備えることにしています。

5 評価委員の守秘義務等

評価委員は業務上知り得た情報及び評価内容に係るいかなる情報も他に漏らしてはならないこととします。

また、評価委員は利害関係のあるファッション系認定校の第三者評価には従事できません。

III 評価基準と評価結果

1 評価基準

評価の基準は「ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価点検評価項目」を適用して行います。

2 評価基準設定の考え方

- (1) 関連法令や設置基準をクリアしているか
- (2) 一般に高等教育に求められる事項や水準を満たしているか
- (3) 教育内容、教育活動等が専門分野の関連する業界や職種における人材要件（知識・技術・人間性）に基づくものであるか

3 評価基準の構成

「ファッション分野における職業実践専門課程第三者評価点検評価項目」は基準1～8（大項目）及び点検項目32（中項目）小項目（評価の観点）の構成となっています。

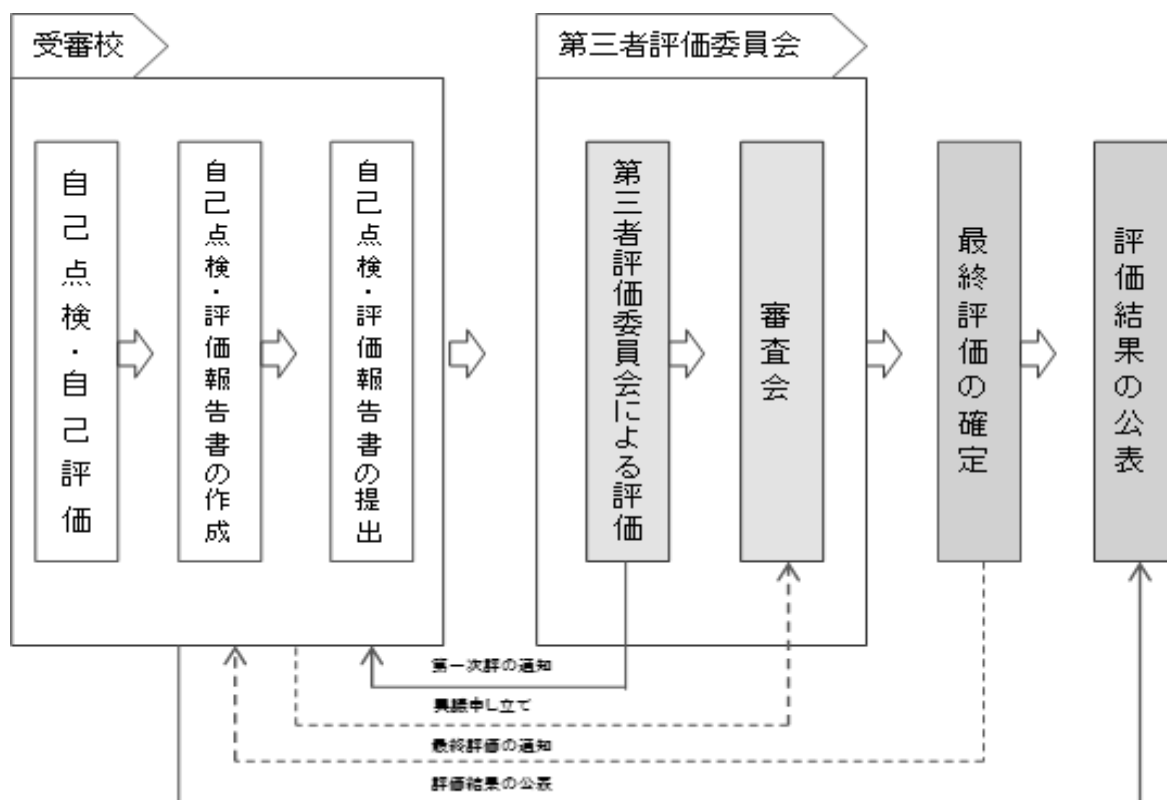
自己点検・評価報告書の構成は中項目毎としていますが、小項目について、評価の視点に基づき記載し、第三者評価委員は小項目毎に基準を満たしているか否か3段階での評価を行います。

4 自己点検・評価報告書の作成

受審校は学校の現況として基本的な情報を記載し、評価項目の 8 つの大項目に続く 32 の中項目についてそれぞれ小項目の内容を盛り込み、次の 3 点に関するコメントを記述します。

- ① 現状
- ② 特長として強調したい点
- ③ 今後の課題

IV 評価のステップ



1 第三者評価委員会による評価

第三者評価委員は受審校ごとに第三者評価報告書の原案を作成します。評価は以下の 2 つの方法で行います。

(1) 書面審査

自己点検・評価報告書の記述内容、参照資料を精査します。具体的には、小項目毎の観点や評価基準要項のチェック項目に沿って中項目ごとの記述内容により、記述内容の不明点、必要資料、確認を要する点などを整理し明確にします。

(2) 実地調査

評価項目のうち、評価受審校において確認を要する書類や項目については、部会委員が学校に出向き、評価受審校関係者から確認およびヒアリングを行います。

評価受審校側の出席者は、学校長のほか学科長、自己点検・評価の責任者など機構からの質問に対して責任を持って回答することができる教職員に参加をお願いします。

特に、大項目3の教育活動について重点的に評価を行います。

以上の調査を踏まえ、32項目の点検項目(中項目)の評価についてのコメントを内容とした第三者報告書原案を作成し、第三者評価委員会で審議します。

2 第三者評価委員会による評価

評価受審校の作成した自己点検・評価報告書及び第三者評価委員が記載した第三者報告書原案に対し、評価の妥当性、論理性、公平性などを検討し、問題点があれば、受審校に確認や追加説明などを求めます。その上で、第三者評価委員会としての評価案を確定し、実施委員会を通じて学校に通知します。

3 評価受審校による異議申し立て

実施委員会から通知を受けた評価受審校は、評価の内容について確認し、点検項目の評価結果について、不服があるときは、その根拠と関連する資料などを提示し、異議を申し立てることができます。実施委員会へ申立てがあった場合、第三者評価委員会において再評価を行い、評価案の修正を行います。

4 審査会の最終評価

第三者評価委員会は、評価受審校から提出された異議の内容を、自己点検・評価報告書、機構による第一次評価と照らし合わせて審査し、実施委員会での承認をもって最終的な評価を確定します。

5 評価受審校への通知と結果の公表

第三者評価委員会による最終評価は、学校側に通知します。学校は、これを書面による閲覧やホームページへの掲載などの方法で公表しなければなりません。

実施委員会は評価結果を報告書にまとめ、成果報告会により発表するとともに成果報告書により一般に公表します。

V 評価費用

第三者評価の実施に関する経費は受託経費で負担いたします。ただし、経費は、実施機関が文部科学省より受託した採択金額の範囲とします。

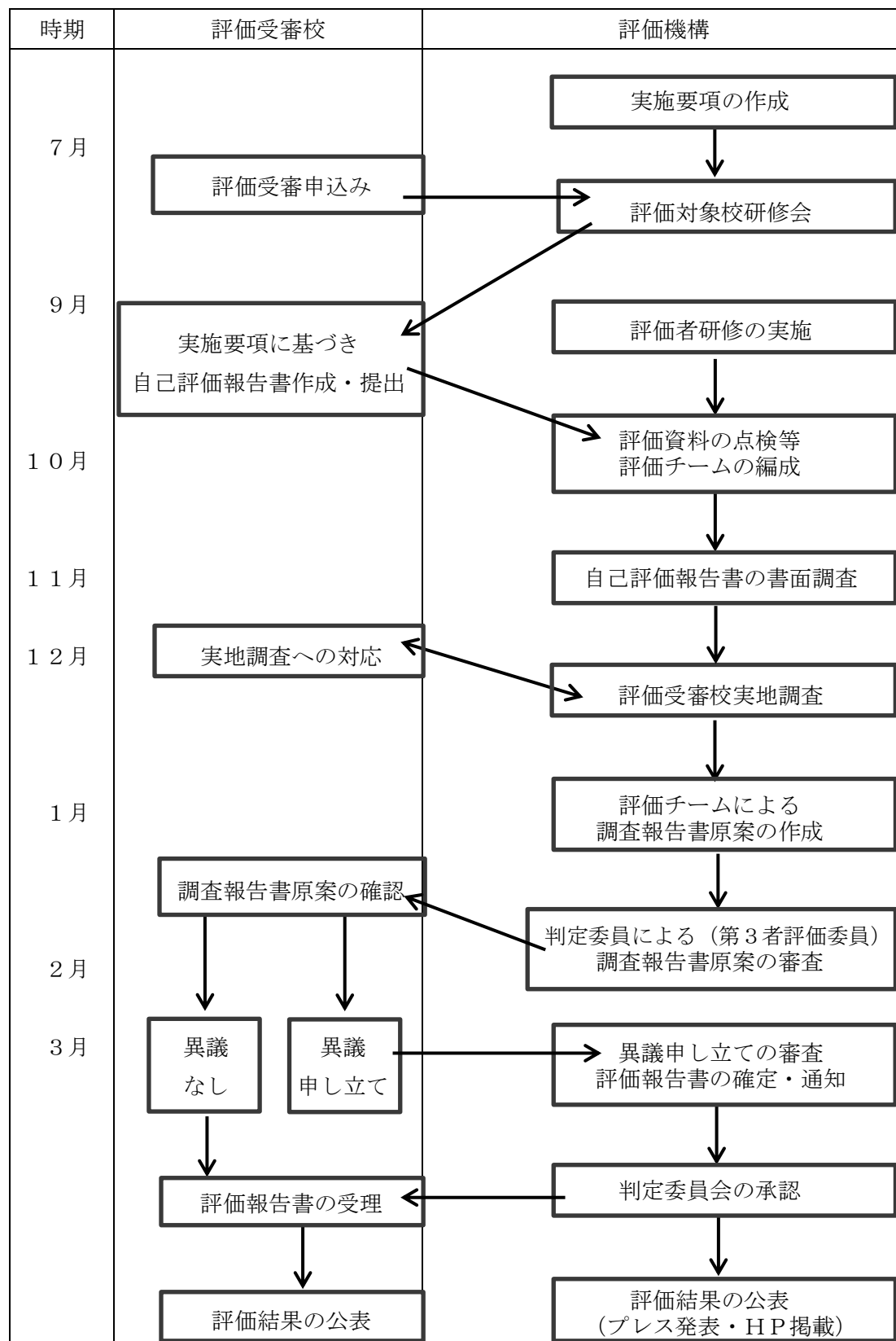
VI 評価スケジュール

評価受審校への説明	平成 27 年 7 月
自己点検・評価報告書提出期限	平成 27 年 9 月 30 日
第三者評価委員会委員による書面審査	平成 27 年 10 月から 11 月下旬
第三者評価委員会委員による実地調査	平成 27 年 12 月
評価受審校への評価案の通知	評価案決定後直ちに通知
評価受審校による異議申立て	評価案確認後 1 週間以内とする
第三者評価の確定	平成 28 年 2 月上旬までに完了

資料 3

ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業

第三者評価試行スケジュール



資料 4

文部科学省委託事業

ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業

自己点検・評価報告書

平成 27 年 9 月

〇〇〇〇専門学校

学校の現況

(1) 学校名及び設置者(学校法人名・代表者名)

(2) 所在地及び認可年月日(所轄庁名)

(3) 沿革

※設立から課程設置(学科)の経過など概要を記述してください。

(4) 課程・学科の構成(平成27年4月1日現在)

課程名	学科名	開設年月日	修業年限	入学定員	収容定員
	合 計				

(5) 学生数及び教員数：

	学生数	専任教員数	兼任教員数
平成27年5月1日現在			
平成26年5月1日現在			
平成25年5月1日現在			

※ 非常勤教員は兼任教員数欄へ記入してください。

(6) 施設の概要

※ 概要の記述または別紙資料を添付してください。

評価項目(中項目)の分析

現状、特徴として強調したい点、今後の課題について、評価の視点(小項目)を参照し、可能な限り小項目に言及して記述してください(1中項目あたりA4・1枚を目安とします。記載は明朝体10.5ポイント)。

記述内容の根拠となる資料や確認することができるデータなどは、連番号を付し、「別冊参照資料集」として綴って、提出してください。(小さな資料、データは本文内に記載することも可能です)

大項目 1 教育理念

中項目 1 教育理念

現状

特長として強調したい点

今後の課題

【参照資料】

以下同様の項目につき省略。

資料 5

文部科学省委託事業

ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業

第三者評価に従事する評価委員の守秘義務に関する規程

平成 27 年 9 月 1 日

(目 的)

第1条 この規程は、文化服装学院が受託した文部科学省委託事業「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業」(以下「委託事業」という)において行う服飾系専門学校の第三者評価(試行)を実施する評価委員の守秘義務に関する事項を定めることを目的とする。

(評価者)

第2条 本規定において、「評価委員」とは、以下の各号に該当する者をいう。

- (1) 第三者評価に従事するすべての評価委員
- (2) 意見申立て審査会の委員
- (3) その他必要に応じ設置された委員会の評価の判定に直接かかわる委員

(当該専門学校)

第3条 この規程において、「当該専門学校」とは、委託事業において第三者評価を受審する専門学校をいう。

(情報の使用の範囲)

第4条 評価委員が評価活動を通じて収集した情報は、第三者評価以外の目的に使用してはならない。

(守秘義務)

第5条 評価委員は、以下の各号に掲げる事項についていかなる情報も他へ漏らしてならない。

- (1) 当該専門学校の評価者であるということ
- (2) 当該専門学校の調査に関する情報
- (3) 当該専門学校の関係者の個人情報
- (4) 当該専門学校の調査実施にあたり、ほかの評価者の個人情報
- (5) その他委託事業で必要とされる事項

2 この守秘義務は、評価活動終了後も継続するものとする。

(情報の管理)

- 第6条 評価委員は、調査の過程で知り得た当該専門学校から提出された資料及び情報(関係者の個人情報を含む)、調査に関わる他の評価者の個人情報を、厳重に管理すること。
- 2 第三者評価のための資料等は、受審校の調査の終了後、本機構事務局に返却すること。
- 3 評価委員は、調査の過程で記録した会議録及び他の評価者や委託事業に携わる者との間に発生した書簡(電子メール等を含む)を受審校の調査の終了後、破棄すること。
- 4 文化服装学院は、受審校が提出した諸資料について、次回以降の専門学校評価のために一部保存するほかは、外部に漏えいすることのないよう、適切な方法で処分するものとする。

(雑 則)

- 第7条 この規程の改廃は、委託事業における合同委員会において決定する。
- 2 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成 27 年 9 月 1 日から施行する。

資料 6

文部科学省委託事業

ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業

第三者評価委員規程

平成 27 年 9 月 1 日

(目 的)

第1条 この規程は、文化服装学院が受託した文部科学省委託事業「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業」(以下「委託事業」という)において行う服飾系専門学校の第三者評価(試行)を実施する評価委員の職務等について必要な事項を定める。

(評価委員の委託)

第2条 評価委員は、委託事業の事業責任者が次の者に委託する。

- (1) 委託事業の趣旨を理解している評価委員候補者
- (2) 学校財務について知識を持つ評価委員候補者

(任 期)

第3条 評価委員の任期は委託事業の終了時までとし、再任は妨げない。

(職 務)

第4条 評価委員は文化服装学院が編成する専門学校評価委員会に所属するものとし、委嘱された評価委員は、次の職務を行う。

- (1) 評価対象専門学校の書面調査
- (2) 評価対象専門学校の実地調査
- (3) 評価対象専門学校の調査報告書の作成
- (4) 評価実施のための諸会議
- (5) その他評価の実施に関すること

(守秘義務)

第5条 評価委員は、評価の実施に当たっては公平、公正及び誠実を旨とし、業務上において知り得た情報及び対象専門学校の評価内容等に係るいかなる情報も他へもらしてはならない。

2 この守秘義務は任期終了後も継続するものとする。

(セミナー、評価実施等への出席に係る手当及び旅費の支給)

第6条 評価委員に対する手当及び旅費の支給については、別に定める。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、評価委員に関し必要な事項は、事業責任者が評価委員と協議の上、定めるものとする。

附 則

この規程は、平成 27 年 9 月 1 日から施行する。

資料7

個人情報保護・秘密保持に関する誓約書

文部科学省委託事業

「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業」

事業責任者

横倉 孝 殿

私は、上記事業において第三者評価委員を受託するにあたり、秘密保持および個人情報保護に関するモラルを遵守し、第三者評価試行によって知り得た受審校の情報ならびにその個人情報について事業の目的以外の目的で使用しないことを約束いたします。

本誓約書に違反した場合、法律に基づく懲戒 処分を受けることを承知いたします。

以上

平成 年 月 日

住所

氏名

印

資料 8

調査報告書案に対する意見書

※評価案の内容について意見がある場合ご提出ください。

<調査報告書案に対する意見>

学校名 _____

No.	場所など	内容
例	ページ数	8 ページ
	項目	大項目 1 教育理念の中項目 1 教育理念
	該当部分の抜粋	②満たしている
	意見	独自の教育理念を明確に打ち出しており、「③優れている」評価を希望します。
	根拠資料	第三者評価のための自己点検・評価
1	ページ数	
	項目	
	該当部分の抜粋	
	意見	
	根拠資料	
2	ページ数	
	項目	
	該当部分の抜粋	
	意見	
	根拠資料	

※ 根拠資料は既にご提出いただいている場合は添付不要です。

※ 実地調査後の活動状況等につきましては反映いたしかねますのでご了承ください。

調査報告書案に対する語句修正依頼書

※評価案の誤字、脱字等の修正希望の場合ご提出ください。

<調査報告書案の語句の修正について>

学校名 _____

No.	場所など	内容
例	ページ数	12 ページ
	項目	大項目 1 教育理念の中項目 2 募集について
	該当部分の抜粋	本学、メイキャップコースにおいては
	相違語句	メイキャップコース
	正しい語句	メイクアップコース
	補足（説明）	メイキャップは口語であり、学則においてメイクアップコースという名称で届出済。
1	ページ数	
	項目	
	該当部分の抜粋	
	相違語句	
	正しい語句	
	補足（説明）	
2	ページ数	
	項目	
	該当部分の抜粋	
	相違語句	
	正しい語句	
	補足（説明）	

※ 名称など、明らかな相違について記入してください。

資料 9

文部科学省委託事業

「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業」

大阪文化服装学院 第三者評価報告書

第三者評価委員

田山淳朗（ファッションデザイナー）

宮原勝一（文化服装学院専任教授）

小林克也（文化服装学院学務課課長）

吉野たけし（二葉ファッションアカデミー校長）

I 評価結果

【判定】

評価の結果、大阪文化服装学院は、「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証・向上の推進」事業における第三者評価委員会が定める評価基準を満たしており、適切な学校運営が行われていると認定する。

II 総評

建学の精神・理念である「社会への還元」のもと、「モードの世界標準を PLAN DO」を育成すべき人材像として明確に掲げ、学校のホームページ、パンフレット或いはその他印刷物などで学校内外に公表周知されている。

項目ごとの評価結果は、次ページ以降に詳細を記しているが、大阪文化服装学院は創立 70 周年を迎え、西日本最大級の服飾学校という自負を持って学校運営を行っている。常に世界のファッションに目を向け、グローバル教育を推進すると共に、地元の企業或いは高校等の厚いサポートを受け、きめ細やかな職業実践教育を行っているファッション専門学校であるといえる。

短期的には消費支出超過となっているものの、無借金経営を軸とした優良な財務内容に支えられ、学校運営がなされている。学生募集に関しては順調であり、これは長年にわたる教育成果が認められている証しでもある。一方で学校独自の奨学金制度を整備、学生の経済的負担軽減をしている。

教育環境については、ファッション業界のあらゆる職種に対応出来るよう各種機材を整備、特にデジタル機器については充実した内容となっている。そしてこれらについて特筆すべきは、在校生が自由自在に自分の手足として効率よく且つ積極的に活用していることである。見せる為の機材ではなく、使う為の機材として活躍している。

教育活動に関しては、学科ごとに育成すべき人材像が明確に定められており、それに則した企業等との連携授業が多岐にわたり高いレベルで展開されている。そして短期を含めたインターンシップが高い確率で就職に直結している点も特筆すべきところである。

又、グローバル教育という点では、イタリアのファッション専門学校との業務提携契約に基づく交換留学制度や教員の派遣などを行っている。

これらの結果として、多くの企業からの求人依頼とともに高い就職率を達成、注目すべきは専門職志望者の大半が希望の職種で就職している点にある。

各種規程は法人で定められており、防災・安全管理等も万全と言える。
今後の課題としては、退学率の減少及び情報公開の内容、そして学生数確保の施策として東南アジアの専門学校との連携をどのように図るかと言う点が挙げられる。

大項目 1 教育理念

中項目 1 教育理念

③優れている ②満たしている ①課題あり

「社会への還元」を理念とし、「モードの世界標準をプラン・ドゥ」を育成すべき人材像として
いることは、地域社会への貢献及びグローバル人材養成の観点から評価出来る。イタリア・ポリ
モーダ校との業務提携契約に基づく交換留学制度や、ジョイントファッションショーの開催、次
の課題として東南アジアの専門学校との連携を模索する等、外へ向かっての視点を常に持たれて
いることは素晴らしいことである。

又、「社会への還元」という基本理念のもと、西日本最大級の服飾学校という自負を持って学校運
営を行っていると感じられる。スペシャリスト養成の4年制学科設置等についてはその具現化で
あると考える。

大項目 2 基本項目

中項目 1 募集

③優れている ②満たしている ①課題あり

募集については、その資格・出願期間・出願方法・選考方法が明確に定められている。その
内容については、紙媒体・WEBとも誇張した表現を避け、学校の実態を客観的且つ正確に必
要な情報が記載されている。

又、選考方法については、各学科別に適切な選考方法となっている。アドミッションオフィ
ス入試（AO入試）については、志望者の意欲や適性を図るため、全員に個別面接を実施する
等、適切な措置がなされている。

中項目 2 運営

③優れている ②満たしている ①課題あり

学校運営実務について、職員等の新しい提案に対し閉ざすことなく、仮に失敗に終わったもの
については責任を問わず原因の追及をすることで、更に新しい提案に繋げる姿勢は、教職員の就
業意欲を高め、ひいては学生への質の高い教育に繋がると思われる。

組織図、事業計画等を確認。人事規程等も整備され、学生管理システムが導入されるなど情報シ
ステム化も進めており、適切であると考ええる。

又、今後の課題として挙げている「事務局組織の強化並びに充実」については、財政面とのバ
ランスを考慮しながら推し進めていただきたい。

専門職大学（仮称）への移行を視野に入れる中で、既存の服飾系大学との差別化及び教育の特
色が時代の社会ニーズに沿ったものであるかを常に検証しながら、学校運営にあたるのが肝要

であると思われる。

中項目 3 財務情報

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

職業実践専門課程認定の要件である、財務諸表（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表）の公開は、ホームページにより適切に公開されている。

15 年以上に渡る無借金経営は、学校財務を安定させる重要な要素となっている。平成 26 年度については消費支出超過となっているが、教育環境整備に対する先行投資であるならば問題はないと思われる。単年度ごとの収支を重要視する観点から、今後人件費をいかに圧縮していくのかが大きな課題になると思われるが、在校生数の変動に対し諸経費を適切にコントロールすることで、公開されている財務状況から優れた財務状況であることがうかがえる。貸借対照表については、より詳細な記載が望ましい。

大項目 3 教育活動

中項目 1 教育目標・人材育成像

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

育成する人材像を、「将来ファッション業界において中核的役割を果たす専門人材」と定め、各学科ごとに身につける能力・職種を明確にし、学科構成に反映させている。

学科は、デザイナーやパタンナーを目指すファッション技術系学科と、ショップスタッフ・バイヤー、スタイリスト等を目指すファッション流通系学科に大別される。

技術系学科は、4 年制のスーパーデザイナー学科を頂点とし、3 年制のファッション・クリエイター学科では、目指す技術内容により 2 年次より 5 コース（クリエイティブデザイナーコース・アパレルデザイナーコース・パタンナーコース・ニットコース・オートクチュールコース）に分類されている。

流通系学科は、3 年制のブランドマネジメント学科（プロデューサーコース・ショップ開発コース）と、2 年制のスタイリスト学科、同じく 2 年制のファッション・ビジネス学科においては、2 年次より 4 コース（ショップスタッフコース・バイヤーコース・ディスプレイコース・プレスコース）に分類され、職種ニーズに答えている。スタイリストマスター学科（2 年制）は、学び直しを考えている者にとっても有効に機能していることが伺われる。

又、これらの職種ニーズが適切であるかを、教育課程編成委員会での意見交換や定期的な企業ヒアリングを通し情報収集を行い、カリキュラムにも反映させている。

中項目 2 活動方針・計画

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

教職員に対し職業実践専門課程認定校の意味や意義を、朝礼や諸会議の場において説明及び確認、学生に対しても入学式やオリエンテーションの場において周知を図っている。又ホームページ上に、職業実践専門課程に関する情報や各委員会議事録を記載、広く社会に公表をしている。

企業との連携については、アパレル・百貨店・ショップ・マスコミメディア関係等多岐にわたり全学科において実施、また学科の教育特徴をより発揮するため、特定企業と連携した特別講義や事業展開を実施していることは評価出来る。

上記について関係書類の確認をし、適切であると判断した。

中項目 3 教育課程編成委員会

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

年 2 回開催している教育課程編成委員会の中から、現場で求められる能力習得に有効な教育課程、教科編成、教育方法及び採用時に期待される学生の資質などについて助言を得ている。又、委員の卒業生からの就職先での経験を踏まえた教育内容及び方法の改善についての提言は、学生視点に立つものであり、有効であると思われる。

今年度 1 回目の議事録を確認。2 回目は来年 2 月に開催予定。保護者の参画など積極的な取り組みが見られるが、一方で学校関係者評価を兼ねており、カリキュラムの改善に特化した委員会を行うことが望ましいと考える。(スタイリスト分野についてはそれが確認できた)

又、多方面からの意見をいただくうえで、どうしても構成員の数が多くなりスケジュール調整が煩雑になることは、各校の共通した課題といえる。

中項目 4 連携授業と連携教育

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

ファッションビジネス学科及びスタイリスト学科で 1 年次後半に全員参加を前提とした販売実習、スタイリスト実習、ブランドマネジメント学科で 2 年次に 240 時間余りの販売インターンシップ等、企業と連携した授業を積極的に取り入れている。特にブランドマネジメント学科では実践店舗を設置し、企業講師のもと学生が主導して店舗運営をしていることは特筆に値する。又、単発的な特別講義に加え、スーパーデザイナー学科では 3 年次に伊ポリモード校へ短期留学を実施。デザイン発想の集中講義を受けることで、デザイン発想力を高めている。

ファッションクリエイター学科では 2 年次末に技術系職種のインターンシップを実施しているが、学科生全員が受ける環境が整うことで、より一層充実したものになると思われる。又、様々な取り組みの中で、学生のモチベーションアップに繋がる「EQ 教育 (Emotional Intelligence

Quotient)」を導入することも一考であり、27 年度後期より開講の「アパレル販売員養成講座」で予定しているロールプレイングコンテスト等は、これに繋がることが期待され、学生の心のリフレッシュになると思われる。

中項目 5 目標の設定

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

各学科ごとに、

- スーパーデザイナー学科・・・世界に通じるデザイナーの育成
 - クリエイター学科・・・・・・組織の中で活躍する、デザイナー・パタンナー等の育成
 - ブランドマネジメント学科・ショップ開発、ブランド創設が出来る人材の育成
 - ビジネス学科・・・・・・ショップスタッフ、バイヤー等を育成
 - スタイリスト学科・・・・・・卒業後直ちにスタイリストとして就業可能な人材の育成
- というように、目標とする職業を明確にし、それに則した教育編成方針を定めている。

教育到達レベルについては、学科により高低差を付け、学生に配布するシラバスの中に、各学年・学科ごとに具体的な到達目標を明記することで、学生の理解を深めている。また目標達成のために放課後の教室解放などの配慮を行っており、適切であると考えている。

中項目 6 教育内容・評価等（共通項目）

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

全学科共通で「服装史」「マーケットリサーチ」が必須、又ミュージカル等の演劇鑑賞を年 1 回実施することにより、ファッション感覚を涵養している。そして「カラー」「アパレル素材」も全学科必須とすることで、デザイン素材の理解を向上させている。

コミュニケーション力と協働力を向上させる為に、卒業作品製作を個人製作ではなくグループ製作としたり、各授業の中で発表の時間を確保することで、プレゼンテーション能力を向上させている。

又、イタリア・ポリモーダ校との提携による短期留学・交換留学生制度・デザイン教授の招聘によりグローバル感覚の向上を図るとともに、平時から企業等とのコラボレーション等に積極的に参加する中で、企業倫理、法令遵守について理解をさせている。

グローバル教育については、語学授業の導入を今後期待したい。

中項目 7 教育内容・評価等（個別項目）設置学科に応じて評価項目を選択する

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

各学科及び目標とする職種に応じて教育内容を編成しているが、全学科を通し「クラフト」という考え方を主眼としており、モノ作り教育への想いが反映された内容となっている。

企画・デザイン職では、「デザイン」「パターン」「縫製」を一貫した科目編成とし全体の流れを理解させ、デザインを忠実に表現出来るパターン力に加え、デザイン・シルエットに最適な素材選び、素材特性に合致した縫製技法の教育をしている。これに加え、染色加工技術を学び、応用的な素材知識・加工技術を習得させている。

技術職では、各学年のレベルに応じた素材指定を行うことでスムーズな技術習得を図るとともに、1年次後期からの工業用パターン教育、2年次からCADを必須とすることで量産アパレル技術に対応している。

縫製職においては、2次加工へのこだわりを重視した教育をしている。

販売職では、「マーケットリサーチ」での店舗分析をもとに、ブランド企画・販売促進・販売手法・MDを学び、店舗運営に必要な商品管理を計数によって把握させている。

ビジネス総合職では、「マーケティング」「リテールマーチャンダイジング」の両科目を柱とし、ブランド企画、店舗開発のマネジメント能力を発揮出来る人材を育成している。

スタイリスト職では、「コーディネート論」の授業に最重点を置き、理論と実践を統合している。

中項目 8 特色ある教育

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

各方面への積極的な働きかけにより、アパレルや業界団体、リテイラー等と多彩な産学コラボレーションを展開、商品企画提案、ショップ開発運営や神戸コレクションへの参加等、独自の連携事業を推進している。又、独立起業支援プログラムとして、阪急梅田本店に卒業生ブランドをミックスしたデザイナーショップを出店、合同展示会「rooms」への出展、他にも企業との連携の中で長期運営店舗を展開、学生のモチベーション向上に繋がる教育を行っている。

海外との取り組みも積極的に行っており、イタリア・ポリモーダ校との交換留学制度をはじめ、アメリカFITでの研修、中国・大連ファッションショーへの参画などを果たしている。

上記の取組みとともに、プロ仕様の充実した設備を完備することで、「Tokyo 新人デザイナーファッション大賞」「装苑賞」等の国内最大規模のコンテストでグランプリ、入賞者を輩出していることは、特筆すべきことである。

今後、ファッション分野についてのデジタル教育は一層重要となり、ファッション系アプリの活用等による内容充実と、ファッションブロガーを始めとする新職種に対応するカリキュラム編成に期待したい。

中項目 9 教育設備

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

基本的な設備である工業用マシンは学生一人に 1 台設置。コンピューター関連では、ワード・エクセル等のビジネス系ソフトを完備したコンピュータールーム、イラストレーター・フォトショップ等のグラフィック系ソフトを完備した DTP ルーム、パターンメイキング・グレーディング等、(株)東レのパターン系ソフトを完備した CAD ルームを設置している。又、ニットスタジオには、(株)島精機のホールガーメントコンピューター横編み機をはじめとする、ニットデザインシステムを完備、他にスタイリストワークに必要なフォトスタジオや特別講義やファッションショー開催の為に「すみれホール」を設置、あらゆる実習に対応できる環境を整えている。

又、デザイン発想力の強化のため蔵書・アーカイブ等の資料を充実させ、専任の司書を配置している。

そしてこれらの機器を、学生が自由自在に自分の手足として効率よく且つ積極的に活用していることは、特筆すべき点である。

大項目 4 学習成果

中項目 1 就職・就職率

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

企業と連携したインターンシップを積極的且つ有効に利用している。

特にファッションビジネス学科(2 年制)は、30 社余りの企業とインターンシップ契約を締結、全員が 1 月中旬から 1 ヶ月間「販売実習」に参加、その後すぐに就職活動を開始させる体制をとっている。ブランドマネージメント学科(3 年制)では、アパレル・セレクトショップ数社と連携、2 年次後半から毎週金・土曜日に延べ総時間 220~240 時間にわたり店舗運営に携わらせている。クリエイター系の学科(3 年制)では、春休みを中心に技術系のインターンシップを実施、これらのインターンシップ研修を実施することで、学生が参加した実習先企業に就職する比率が年々上昇、平成 25 年度では約半数を占めるまでになっており、この制度が有効に働いていることを実証している。

求人については約 200 社、販売職を中心に約 2000 名の求人があり、専門職志望者のその大半が希望の職種に就職している点は評価できる。

又今後の就職対策として、東京地区での企業説明会を開催する積極的姿勢も評価できる。

中項目 2 資格・資格取得率

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

学科の特性に合わせ、ビジネス系では、ファッションビジネス能力検定・ファッション販売能力検定・ファッション色彩能力検定・日商 P C 検定等、クリエイター系では、パターンメイキング技術検定・洋裁技術認定・ファッション色彩能力検定・日商 P C 検定を目標として受験させている。

この中でも特にパターンメイキング技術検定に注力し、難関といわれる 1 級についても毎年数名が合格している。又、すべての検定において試験直前の放課後に資格取得対策授業を実施、資格取得率の向上に繋げている。

平成 26 年度の年間を通じた各検定試験合格率は、パターンメイキング技術検定・ファッションビジネス能力検定・色彩検定・ファッション色彩検定においては全国平均を上回っているが、ファッション販売能力検定及び販売士検定、洋裁技術検定では伸び悩んでいる。又、年間 2 回行われる検定試験では、回によって合格率にバラつきが見られるが、検定の種類、級を検討し、必要に応じて全員受験としており、適切であると考ええる。

中項目 3 成績評価・単位認定等

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

成績評価については、学期開始時に学生へ説明をするとともに、その内容が記載された「学院生活ガイドブック」を配布することで透明性を担保している。認定については、筆記試験・実技試験・提出課題による総合評価とし、規定の出席数を満たしているものが成績認定される。

提出物の期限内提出は必須であり、出席状況における可能欠時数は 25% 以内 3 科目まで、スーパーデザイナー学科は認定基準を 75 点、ブランドマネジメント学科では認定基準を 65 点（他学科は 55 点）とすることで、教育の質を確保している。

感性面に関わる評価も教員間で意見交換を行い、平準化に努めている。また進級、進学条件や許容欠席日数を定め学生に周知している。

中項目 4 学習成果

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

シラバスに到達目標・成績評価基準を明記、授業の進捗状態・学生の理解度・出欠状況等をプランニングシートに教員が記入提出することで、学生の学習状況把握に努めている。

又、学生による授業評価アンケートをすべての科目について前後期末に実施、授業内容等の改善に努めている。これらについては、実地調査により意欲を持って学習に取り組む学生が大半であることが確認できた。又、授業アンケートにより抽出された課題ある授業については担当教員と

話し合いを行い改善している。

中項目 5 卒業生社会的評価

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

大手アパレル企業で活躍するデザイナー・パタンナーだけではなく、起業又はフリーランスとして活躍している卒業生も数多く存在する。

又日本国内だけではなく、イタリア・ミラノでテイラーとして独立した卒業生等グローバルに活躍する人材を輩出している。

これらの優秀な人材を学校で適宜把握する為の手段として、同窓会組織である「すみれ会」を活用している。又企業へのアンケート実施に替え、就職関連での企業訪問を通じて聞き取りと把握を行っていることが確認できた。

今後企業への書面によるアンケートの実施を期待したい。

大項目 5 教員の質の保証

中項目 1 教員・教員組織

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

教員の採用については、大学・専門学校からの新卒は一切採用せず、ファッション業界でのプロとしての技術、リアルタイムな情報、経験を有した者を配置。業界経験者を採用するという前提のもと、専任教員が専門性を高めることによって複数の科目を担当できるようにしている。これにより担任と非常勤講師のバランスを工夫し、担任のメリットを活かしつつ多様な科目をカリキュラムに盛り込んでいる。

教育指導面でのキャリア不足に関しては、採用後新任教員研修会への出席を義務付けることで対応している。在籍中の教員は、絶えず自己啓発に努めるとともに、担当教科に必要な知識・技術・技能などの向上に取り組むことで、教員の質の保証を確保している。

中項目 2 教員評価

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

学生アンケートの結果の公表に基づき改善、検証をするというサイクルを作ることで、学生の満足度向上に繋げている。

人事考課は、勤務態度・発揮能力・実績に則し年 2 回実施。評価の低かったものに対しては、その理由を考課者から伝え話し合いの場を持ち改善を図っている。

中項目 3 教員研修

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

教員研修は教員研修規定に定められており、次の3つの区分にて定期的、継続的に実施、適切である。

1. 企業と連携した教員研修
2. 各種教育団体が実施する教員研修（職業教育・キャリア教育財団、大専各等）
3. 業界団体・協会、マスコミ等が主催する各種研修講座、セミナー

いずれも授業内容の質向上に狙いを定め、専門性の追求、教授力の向上、最新情報の収集活用を目的に行っている。今後研修形態などをより具体的に定め、組織的・継続的に定着させることが望まれる。

「ファッションビジネス学会」における研究発表・調査結果発表は、教員の意識向上に繋がるものと評価出来る。

今後企業での研修成果をどのように授業に反映させ、その結果学生はどのようなメリットを享受できたかを、学生アンケートにより検証することも重要である。

大項目 6 学生支援

中項目 1 就職

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

各学科においてインターンシップ研修を実施することで、学生が参加した実習先企業に就職する比率が年々上昇、平成 25 年度では約半数を占めるまでになっており、この制度が有効に働いていることを実証している。

求人については約 200 社、販売職を中心に約 2000 名の求人があり、専門職志望者のその大半が希望の職種に就職している点は評価できる。

学生についての指導は、キャリアセンターと各学科の就職担当教員の連携により、面接や履歴書の書き方まで適切に行われている。ただし学校の規模を考えると専任スタッフの配置も検討したいところである。

又今後の就職対策として、東京地区での企業説明会を開催する積極的姿勢は評価できる。

中項目 2 中途退学への対応

3 優れている 2 満たしている ①課題あり

担当教員が退学率の低減について数値目標を掲げ、きめ細かい指導を行っている。早期対応を心掛け、常に学生の様子に気を配り、異常があれば保護者とも連絡を取り学生との面談、保護者を交えた 3 者面談を実施している。又、担任のみに負担がかからぬよう学年主任・学科主任も面

談に加わり、情報共有をしながら問題解決にあたっている。

また、退学・休学の理由を「経済的」「学力的」「精神的」「家庭的」「その他」に分類、「精神的」な者については、外部カウンセラーによるカウンセリングを定期的実施し、低減を図っているが、平均約 10 パーセントの退学率や学生聞き取りから課題があると考ええる。

中項目 3 学生相談

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

生活や学習指導・対人関係・健康等に関する日常的な学生相談はクラス担任、教科担当が対応、学費・奨学金等の経済的な問題については担任経由で事務局が担当、就職・進学についてはキャリアセンターが窓口となって対応している。この他に、月 2 回のメンタルカウンセラーの来校により相談窓口を充実させている。

又、いじめを未然に防止する為「大阪文化服装学院いじめ防止基本方針」をまとめており、適切であると考ええる。

今後これらの対応が有効に機能しているかを、学生アンケートの項目の中で検証することが大切であると考ええる。

中項目 4 学生生活

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

学生の経済的相談についてはファイナンシャルプランナー、精神的相談についてはメンタルカウンセラーを学外より招聘している点は、非常に有効だと思われる。入学後の経済支援についても、学校独自の奨学金制度を整備しており、現在 8～10 名の学生がこの制度を利用している。

学校保健法に基づいた健康診断は毎年 4 月に全校生を対象に実施、健康維持管理体制を整備、学生寮については外部幹旋機関を活用している。

現在在籍している留学生は 7 名と少ないが、滞在許可の申請等法的支援は事務局が担っている。

分野における課題等が多いという特性もあり、クラブ活動等の課外活動は整備されていないが、学生からのニーズがあるものを基準に各種支援体制を整えており、適切と考える。

中項目 5 保護者との連携

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

保護者を対象とした定例の説明会を、オープンキャンパス参加保護者対象の学校説明、入学式後の新入生保護者対象の学校説明、卒業年次生保護者対象の就職説明を行うことで、学校への理解を深め連携体制を整備しており適切といえる。

在学中については、学業成績・出席不良者の保護者に対しその状況を報告、協力を得るように

している。又、企業連携事業に取り組む場合には文書等でその内容を知らせ、承認書を提出してもらう等、きめ細かい対応をしている。

中項目 6 卒業生・社会人

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

卒業と同時に永久会員となる同窓会組織「すみれ会」を整備、ホームページを開設しているとともに会報を発行している。又、同窓生相互のコミュニケーションを深める場だけではなく、卒業後の就職・転職相談や同窓会主催の奨学金制度の検討など有効に機能している。又、通常の授業に支障がない範囲で、卒業生に対し校内機材の使用を開放している。

他に卒業生起業支援にも取り組んでおり、今後募集の告知や条件等について整理できればより良い卒業生支援が可能になると考える。

事例は多くないが、卒業生の就職指導も行っており適切といえる。

大項目 7 教育環境

中項目 1 防災・安全管理

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

創立 70 周年記念事業として、北館の耐震工事が完成、全ての校舎の耐震工事を終了させ安全を確保している。防火管理維持台帳を整備、災害時の情報連絡体制や役割分担、取るべき行動をマニュアル化するとともに、毎年定期的な避難訓練・消火訓練を行っており、適切といえる。学校の敷地内には中庭が配置されており、校舎も廊下・階段等の幅を広く持たせることで、万一の災害発生時にも避難しやすい設計となっている。

大項目 8 内部質保証

中項目 1 関係法令

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

学院の運営監査については他企業監査役に監事委託、財務状況については顧問会計事務所による定期的会計監査に加え、適宜会計帳簿並びに金銭收受等の検査を受けることで適正化を図っている。法律・法令の遵守を徹底させる為に、常に顧問弁護士或いは管轄官庁に確認を求めている。

特に、個人情報の取扱いについては最新の注意を払い、教職員に向け指導を強化徹底していることは、適正な学校運営の為に適切な措置といえる。

中項目 2 個人情報

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

入学志願者、学生、卒業生および教職員等の学校が保有する個人情報に関しては、「在校生等に関する個人情報について」の規定を整備、これに基づき適切に運用をしている。

又、個人情報保護規定とは別に、個人情報データ等の学外持ち出しを禁じる「情報機器管理規定」を整備することで、遺漏等の事故を未然に防ぐ努力をしている。

別に啓蒙活動として、教職員には職員会議や朝礼の場で、在校生については入学時のオリエンテーションで説明する一方、規定の抜粋を「学院生活ガイドブック」に明記することで喚起を促している。

他に学生、教職員を対象にした定期的な研修を実施することで万全を期している。

中項目 3 学校評価

3 優れている 2 満たしている ① 課題あり

平成 24 年度より「学校自己評価」に加え「学校関係者評価」を実施、学校の客観的評価に努めている。委員会では、業界団体及び大手アパレル企業からの委員から出されたアドバイスにより、インターンシップを大幅に増やした結果、就職率・数ともに大幅に改善した。今後、第 3 者による授業評価及び授業参観日の設定、高等学校教員の学校関係者評価委員への参画を予定しており、多方面からの意見を集約し学校運営に反映させようという姿勢は評価出来る。しかしながら、自己点検評価について学校関係者が採点を行う形式で実施しているという話であったが、学校関係者による評価の書類が確認できなかった。よって課題ありと考える。

中項目 4 情報公開

3 優れている 2 満たしている ① 課題あり

学校ホームページに、職業実践専門課程認定に伴う「様式 4」に則り、財務諸表・就職情報・授業科目等の概要については、情報を適切に公開している。学校関係者評価報告書については、その議事録のみがホームページ上で公開されているものの、学校関係者評価報告書についての掲載はなかった。これについては、実地調査時において書類での確認も出来なかった為、課題ありと考える。

文部科学省委託事業

「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業」

香蘭ファッションデザイン専門学校

第三者評価報告書

第三者評価委員

川合直（一般財団法人日本ファッション教育振興会常務理事）

櫛下町伸一（文化ファッション大学院大学専任教授）

吉野たけし（二葉ファッションアカデミー校長）

森慈郎（大阪文化服装学院理事長）

【第三者機関による評価結果】

（判定）

評価の結果、香蘭ファッションデザイン専門学校は、第三者評価委員会が定めるファッション専門学校における職業実践専門課程の基準を満たしていると認定する。

（総評）

建学の精神、教育理念は明確で、その精神、理念に基づいた教育の目標が的確に定められており、学校のホームページ、パンフレット或いはその他印刷物などで学校内外に公表周知されている。

項目ごとの評価結果は、次ページ以降に詳細を記しているが、当該校は九州・福岡に根をおろし、地元の企業或いは高等学校等の厚い支援をうけてシッカリとしたファッション教育を行っている九州地区随一のファッション専門学校である。

優良な財務内容に支えられ、余裕のある運営がなされており、更に学生募集に関しても、教職員全員で手分けして行う等、経費の節減が適切になされている。一方、学生の負担を出来るだけ少なくするという理念のもと、他校に比べ大幅に安い授業料設定になっていることは特筆される。ここ2-3年は、消費支出超過状態が続いているが、潤沢な金融資産を有しており、財務的には万全と言える。

教育活動に関しては、各科それぞれに育成すべき人材像が明確に定められており、専門的な知識、資格を有した教員により授業が行われている。また、学年ごとに達成すべき基準、卒業のための基準も明確である。特色ある教育として、授業終了後、学生全員でトイレを含む校舎清掃を行うなど、人間力を養う教育が挙げられる。また、挨拶運動も徹底しており、実地調査を行った際にも、学生諸君のきびきびした挨拶を受けたことが印象に残る。

就職に関しては、前述のごとく地元企業からの支援が厚く、卒業生数を上回る求人が常にある状態となっており、就職率も極めて高い。

都心にある専門学校としては、非常にゆったりした校地、校舎を有しており、設備に関しても学生数に見合った設備・機器が用意されている。

組織倫理の基本である各種規程は法人で定められており、防災・安全管理等も万全と言える。

情報公開に関しても、職業実践専門課程の認可に必要な資料は全てホームページ或いはパンフレットで公開されている。

総じて、地元九州の産官学の支援を全面的に受けて、誠実な学校運営がなされており、その特色、独自性が発揮されている。また、九州・福岡地区のファッション業界を支える貴重な教育機関として、今日に至るまで地元の経済発展に大きく寄与してきており、これからもそのような役割を担うことが期待される。今後の課題として、東南アジアの窓口である福岡の立地条件を活かし、海外展開をどのように図るかという点が挙げられる。

大項目 1 教育理念

中項目 1 教育理念

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

地元に着目し、「技術教育と人間教育」を教育理念に掲げ、古い歴史と伝統を誇る。ファッション感覚や、伝統技術等アナログの力を養うと同時に、最新の IT 技術等デジタルの力も身に付ける教育を行っている。特に地元福岡のファッション業界への教育面での貢献は大きい。グローバルな視点に関しては、文化連鎖校の重要メンバーとして、文化服装学院を通じて欧米のファッション情報収集を図る等、世界の最新情報を得る努力が常になされている。独自の活動として、福岡という地の利を生かし、中国、ベトナム等東南アジアを見据えた連携事業を検討している。

大項目 2 基本項目

中項目 1 募集

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

入学者選考基準は明確に定められており、紙媒体、HP で告知されている。広報活動に関しては、外部コンサルタントや、専任の広報担当を敢えて置かず、校長を含めた教員並びに事務職員が直接高校を訪問する、或いは会場ガイダンスに出席することで、経費が安く、効率の良い募集がなされている。また、サマーファッションコンテスト等を開催し、来場した入学希望者に対して体験入学を通じ授業の内容、就職状況等を詳細に伝えている家庭に関する学科を設置している高校の教員に向けての夏季講習会も実施している。幹部教職員が直接高校に訪問することで、高校側の進路指導教員の厚い信頼を得ている。

今、殆どの学校で採用している AO 入試については、教育の本質から外れるものという高い見識の下、敢えて採用しないという見識は立派だと言える。

中項目 2 運営

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

教育理念に基づき、理事会において策定された事業計画に従い、校長が運営方針を定めている。少子化に伴う長期的な入学者数の減少傾向はみられるものの、最近では入学者数増加が見られ、更にこれまであまり注力してこなかった留学生、或いは社会人の志願者数をアップさせることで、学生数の減少傾向に歯止めをかけることを急務としている。

開校以来ファッション教育一筋と言う姿勢にブレが無く、学生を送り出す立場の高校、在校生、卒業生並びに地元企業に対して安心感を与えている。

中項目 3 財務情報

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

財務内容は HP で公開されている。

学園全体では平成 26 年度末に負債総額の 2.1 倍にも当る流動資産を所有しているほか、特定資産も有しており、財務基盤は盤石である。過去 3 年間は消費支出超過が続いているが、改善傾向がみられ、財務的な面での不安は感じられない。

施設、設備等の投資についても、中長期的な視点で計画が立てられている。また、監査法人の公認会計士による監査を毎年受けており、適正かつ的確な助言の下、経理処理が行われている他、非常勤の監事による学園全体の財務状況、並びに管理・運営についての内部監査が週 1 回のペースで実施されている。

大項目 3 教育活動

中項目 1 教育目標・人材育成型

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

ファッションデザイン専攻科、ファッションデザイン科、ファッションテクニカル科、ファッションビジネス科それぞれに明確な教育目標が定められており、業界が求める各職種に見合ったカリキュラム構成となっている。カリキュラム名称が一部似通っているものも見受けられるが、学校に対して説明を求めると、それぞれの職種を意識したものであることが理解できる。

また、学科毎の人材育成型に一部重複している部分があるが、学科の人材育成目標と就職先の職種は統計的に合致しており、上記の方針が裏付けされている。

中項目 2 活動方針・計画

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

学生が卒業後に就職する業界や職種を常に意識し、各学科の教育内容がそれにふさわしいものかどうか学内会議等を通じて検証している。企業団体等から依頼を受けたイベントや、コラボレーションには積極的に参画し、ファッション分野の職業実践専門課程認定校として、企業との連携の大切さを企業並びに学生の双方に周知している。

定期的に行われるイベントに関しては、前年 12 月に計画を立案し、カリキュラムに取り入れて授業の一環として参加しているが、時期を定めないもの、或いは突発的なものについては、適宜学内で協議の上、参加の可否を決めている。

中項目 3 教育課程編成委員会

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

地元企業の支援をしっかりと受け、非常にバランスのとれたメンバーで委員会は構成されている。委員会での企業委員の提言をもとに、デザイン系学科では、デザインに特化したカリキュラムへの変更を行い、流通系学科ではマナー等基本的な動作を教える授業を充実させるなど着実に教育課程の内容に反映されている。以上のことは学生にとってのメリットだけではなく、教員の指導力アップにも繋がっている。平成 27 年度の編成委員は、企業 3 社（アパレルメーカー、小売業、お直し業界）、2 団体（福岡卸センター協会、県洋裁技能協会）、個人デザイナー 1 名、並びに学校関係者（校長、副校長 2 名、事務主任、学園本部長）で構成されている。

中項目 4 連携授業と連携教育

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

地元ファッション業界の全面的な支援と、教育理念への理解もあることで、連携事業に協力する企業並びにその講師は、各学科に相応しい方々が選ばれており、時間も十分確保されている。連携授業の成績評価については、学校側がフォーマットを作り、企業で採点するという方式を取り入れている点が特に優れている。

連携授業を通じて、学生の意識が変わっていくことが実感されており、学生の進むべき方向への指針となっている。

中項目 5 目標の設定

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

教育目標については、当該学園本部の定めた PDCA サイクルに基づき常にチェックされる体制が整っており、すべての教職員に会議等を通じて告知されている。

現存する全ての学科、コースについて職業実践専門課程の認定を受けており、実践的な即戦力の育成を目指し成果を上げている。学年毎の達成目標も明確に規定されている。平成 31 年度から実施となる職業専門大学（仮称）については、学園本部と協議の上進められる予定であるが、その設置基準に応じた教員の確保等、将来的に解決すべき点はある。

中項目 6 教育内容・評価等（共通項目）

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

技術系、流通系学科ともに、企業との連携を通じて、学生自らのファッション感覚が実社会で通用するかどうかの検証を常に行っている。プレゼンテーション能力は、授業の一環として強化

が図られている。

基礎知識を習得する座学に加え、実習では徹底した反復作業を繰り返すことで基礎知識、基礎技術の習得が行われている。また、担任と学生の信頼関係が強固であり、学生評価への担任の信頼度が高い。実力判定のため、前期（4月―9月）、後期（10月―3月）それぞれに学科、実技試験を実施することで学生の実力を判定するとともに、未達と見做された学生には、補習、追加課題、再試験等を実施している。

中項目 7 教育内容・評価等（個別項目）設置学科に応じて評価項目を選択する

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

（ファッションデザイン専攻科）

デザイナー、パタンナー等企画職を目指すためのコースとして、発想力、プレゼンテーション能力等を含め、必要な科目は全てカバーしている。特に CG を活用した企画書の作成等、企業業務に即した実践的な訓練がなされている。対外的なコンテストにも積極的に応募し、発想力、プレゼンテーション力の強化につなげている。実績として、ファッションデザイン専攻科の卒業生の約 5 割がデザイナー等の企画職として就職している。

（ファッションデザイン科）

クリエイティブなもの作りを通してファッション全般を幅広く学ぶコースとなっている。素材に関しては、講義だけではなく「織る」「染める」等の実際の作業を通じて深く学び、素材に合わせた縫製方法等を習得する。期間が 2 年と限られており、デザイン及び物づくりとグラフィックの両方を習得する時間が限られていることが課題。

（ファッションテクニカル科）

主に縫製、パターンメイキングの技術を身に付けるコースである。専門の資格を有した教員が基礎、応用とレベルに応じて教えている。企業とのコラボを通じて、検品、検針、仕上げ作業など、技術ばかりではなく、アパレル製造企業として必要な注意力、精密さ等を学習している。

（ファッションビジネス科）

ショップ運営、販売、コーディネートを学ぶコース。就職先の職種としては販売員が多いが、アパレル企業と提携し、インターンシップ等で実践力を養っている。また、グループワーキングで社会性・協調性を身に付け、将来のマネジメント能力につなげている。

中項目 8 特色ある教育

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

教育理念「人間教育と技術教育」に則り、終業時に学生全員でトイレを含む学内清掃を実施。更に「挨拶運動」を徹底させることで人間力の向上が図られている。知識・技術に関しては、パターンメイキング技術検定を初め各種の検定に特に力を入れており、100%の合格率を目指してい

る。検定対策に関しては、コースにより取得すべき資格を定めており、授業に組み込んでいる。

地元出身者が多いこともあり、学生同士の関係は極めて円滑・良好である。教員との関係も同様で、学生・教員間の信頼は厚い。

中項目 9 教育設備

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

充分すぎるほどのスペースと、工業用マシン、コンピューター関連機器等が完備されている。工業用マシンは学生一人に 1 台が割り当てられており、学生から評価されている。コンピューター関連機器の更新についての規程はないが、12 月末の予算編成時期に、適宜最新機器への更新を行うよう、心がけている。

各設備・施設は常時使用ができるように整備されている。特に放課後は、学生が自由に使用出来るよう解放させている。また、卒業生にも、時間の空きがある限り、無料で使用することが認められている。

大項目 4 学習成果

中項目 1 就職・就職率

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

月末に学科ごとに分けて、就職希望者数に対する就職者数の割合を示した統計資料を作成し、クラス担任に配布することで、教職員会での情報を共有している。

例年、求人数は、卒業者数を 3 倍近く上回っており、平成 26 年度は 95.9%（就職希望者 73 名の内、70 名が就職）と言う高い就職率を達成している。就職先はほぼ全て地元であるが、デザイナー・パタンナー等企画職に関しても、就職希望学生数を上回る求人が新規企業も含めて来ており、問題は無い。地元密着型であるため、地元企業からのサポートが非常に厚く、一方学校側も、教職員全員で学生を指導していることが高い就職率に繋がっている。

中項目 2 資格・資格取得率

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

日本ファッション教育振興協会主催の各種検定に加え、厚生労働省傘下の職業能力技能協会主催の国家技能検定など、資格取得には特に力を入れており、合格率も全国平均を上回っている。資格取得者数、合格率等資格取得の成果は書類に取り纏め、各クラスの担任に配布するなど、情報の共有化も進めている。

中項目 3 成績評価・単位認定等

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

成績評価・単位認定の基準は明確に定められている。進学時には学校長、副校長、学科主任、クラス担任によって「進級判定会議」が行われる。卒業時には同じメンバーで「卒業判定会議」が行われる。

試験の成績、出席数、授業態度が判定項目となるが、その基準が学生に明確に伝わっているか、若干の懸念がある。

現在の基準は時間制となっているが、単位制に移行する準備は進められている。

中項目 4 学習成果

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

学科ごとのカリキュラムについては、その特徴を生かせるような必要科目と時間数の設定を行っているが、教育課程編成委員会において、職能団体、実務企業等の意見を反映させて、見直しが行なわれている。

授業アンケートは適切に実施されており、学生の理解度の把握に役立てられている。企業との連携授業では、学校・企業間の理念が一致していることもあり、高い就職率を生み出す結果につながっている。

中項目 5 卒業生社会的評価

3 優れている 2 満たしている ①課題あり

地元に密着している利点を活かし教職員が企業訪問等を通じて積極的に卒業生の社会的な評価の検証を行っている。また、同窓会組織「五月会」に所属する卒業生数は3万人となっており、2年に一度開催される同窓会は、卒業生の間での情報交換の場所となっている。但し、企業へのアンケート調査等システマティックな形での卒業生の社会的評価の情報収集はできておらず、また、同窓会組織も、歴史が古いという点もあり、業界で活躍している若手卒業生のみを重点的に調査する体制は十分できているとは言い難い面がある。

大項目 5 教員の質の保証

中項目 1 教員・教員組織

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

教員組織は、校長の下に副校長、学科主任、クラス担任と明確な指揮系統が出来上がっている。資格取得の授業を行う教員にはそれぞれの専門分野における資格を取得させることを徹底して

いる。教員の専門性を向上させるため、適宜研修を行い、技術的に業界レベルに十分対応できるようにしている。

中項目 2 教員評価

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

授業アンケートを通して、学生の理解度を常にチェックする体制ができている。学校は授業アンケートのみではなく、期末ごとの試験、提出作品、出席率等で学生の授業全般への取り組み方を認識し、教員の指導力や、教授力を常時把握している。

教員に対する評価は、学校が定める教育目標に従って教育しているかという観点、並びにそれぞれの教員の教授力や適性を勘案して校長が行っている。

中項目 3 教員研修

3 優れている 2 満たしている ① 課題あり

専門学校協会主催の教員研修等には積極的に参加している。実務研修に関しては、技術職、販売職とも関係ある企業との連携で現場研修を行っている。

新卒教員に対する企業研修等への参加には明確なルールがなく、この点課題は残る。

大項目 6 学生支援

中項目 1 就職

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

就職に際しては、本人の希望先、希望職種が叶うよう、本人の意思確認を重要視している。歴史が古く、地元企業とのつながりも深いことから、香蘭単独の推薦枠を設定している企業もあり、地元企業から圧倒的な支持を得ている。就職後の定着率については、特にデータは収集していないが、香蘭出身者が先輩に多いこともあり、離職率はかなり低いように思われる。

中項目 2 中途退学への対応

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

地元出身の学生が多く、教員と学生の信頼関係が樹立され学校全体に一体感が見られるが、中途退学者率は必ずしも低いとはいえない。

中項目 3 学生相談

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

遅刻、欠席が続く学生や、表情が暗い学生に対しては担任が積極的に声をかけ、相談に乗るようにしている。専門のカウンセラーは常駐していないが、必要に応じて臨床心理士の資格を持ったカウンセラーとの面談を実施している。

中項目 4 学生生活

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

奨学金に関しては、公的な奨学金のほか、学校独自のシステムとして入学者対象の「奨学生試験制度」を有している。経済的困難な在校生に対しての支援策も現在検討中である。何よりも、授業料が他のファッション専門学校に比べて大幅に安く、学生にとっての最大の特徴となっている。また、学校が所有・運営する女子寮も完備しており、地方からの入学生にとり、メリットが大きい。

中項目 5 保護者との連携

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

保護者には学業成績、出席、検定取得及び担任の所見を記した成績表を郵送している。保護者会、保護者相談会は特別に設置しておらず、入学式、卒業式の際に保護者へ学校の理念等を丁寧に説明している。

中項目 6 卒業生・社会人

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

歴史が古いこともあり、20代から90代にわたって3万人以上の卒業生を抱える。卒業生には学校の施設（フォトスタジオ、カメラ、パソコン等）を無償で貸与する制度を有している。当校は地元出身者が多いことから、多くの卒業生が集う場となっており、在学中に親身になって教育をしてくれた教員との絆が深い。

大項目 7 教育環境

中項目 1 防災・安全管理

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

防火管理責任者を配置し、防災、安全には万全を期している。火災の原因となり易いアイロン

は教員が全て責任をもって管理している。

大項目 8 内部質保証

中項目 1 関係法令

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

理事長が責任者となり、法令順守する体制が整えられている。学校の業務執行に関しては、内部監事の監査、並びに公認会計士による監査が行われているが、学内の会議等についても、同等の議事録が整備されることを今後期待する。

中項目 2 個人情報

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

学生、教職員の個人情報はロッカーに厳重に保管されており、今まで流出したことは無い。学内の無線 LAN は設置しているが、職員は有線 LAN のみ使用し、外部への情報流出を防いでいる。

学内 LAN は学生と教員のセグメントを分け、それぞれパスワードを設けて情報の保全を図っている。

中項目 3 学校評価

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

学校評価・自己評価を行い毎年 11 月に行われる「学校関係者評価委員会」で学校関係者による評価を実施。評価結果は、HP に公表している。

委員会のメンバーは卒業生、高校教員、アパレル企業役員、アパレル産業協会役員、技能協会役員で構成されており、多方面からの意見を集約することが出来る体制が整えられている。一方、学生からの授業アンケートにより、教員の教授力、指導能力、信頼度等を判断し、今後のスキルアップの資料としている。

中項目 4 情報公開

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

職業実践専門課程の申請に必要なすべての情報は HP 並びに学校パンフレットに公開している。様式 4 に即した、就職状況、中途退学率、教育課程編成委員会の開催状況、企業等との連携内容、授業科目等の概要、財務状況、学校関係者評価報告書は適時更新されている。

文部科学省委託事業

「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業」

二葉ファッションアカデミー

第三者評価報告書

第三者評価委員

川口輝裕（一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会参事）

櫛下町伸一（文化ファッション大学院大学専任教授）

深田勝久（香蘭ファッションデザイン専門学校副校長）

小林克也（文化服装学院学務課課長）

I 評価結果

【判定】

評価の結果、二葉ファッションアカデミーは、「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証・向上の推進」事業における第三者評価委員会において適切な学校運営が行われていると認定する。

II 総評

グローバルな視点を持ったファッションスペシャリストの育成という基本理念を達成するため「涵養の精神と職業人としての自立」という建学の精神をかかげ、これを学内外に周知するよう努めている。基本理念を実現するために全体を通じて学校長統括のもとに、積極的な運営姿勢がみられ、これが二葉ファッションアカデミーの特徴となっている。

吉祥寺駅前という立地条件を活かし、オリジナルブランドショップを運営するなど、職業実践専門課程の「職業人育成」としての目的を見据えた実践的なオリジナリティあるカリキュラムが展開されている。

多摩地区に特化した広報活動を展開。また高校教員との関係に重きを置き、広告に頼らず、広報費を低く抑えている。より目の行き届く少人数制指導を貫く教育は、高校の教員からの信頼を得る事ができ、入学生数に反映されている。年間30回の体験入学はオーダーメイドの体験入学を実施、そして入学後のミスマッチを防ぐようパーソナルな指導に比重を置いている。

高等課程を設置しており、きめ細やかな学生指導や保護者との連携等にそのノウハウが活かされている。また同法人の運営する栄養専門学校との連携により、業務の効率化も図られている。

各評価項目においては、資格取得や卒業生との連携にいくつか課題はみられるものの素材教育や学生支援面で優れていると認められる項目も多く、適切な学校運営であると考えられる。

学生に対する聞き取りにおいても、学校満足度は高く、特に少人数制の運営と、教職員との信頼関係は密接であり、評価に値する。学校選択の理由が体験入学の印象や立地だった点からも、的確な経営方針であることが裏づけられた。

専任教員8名での校務分掌の工夫により、学生満足度の高い運営が行われていることは、二葉ファッションアカデミーの大きな長所と言える。

大項目 1 教育理念

中項目 1 教育理念

③優れている ②満たしている ①課題あり

教育理念に掲げている「グローバルな視点を持ったファッションスペシャリストの育成」と「涵養の精神と職業人としての自立」が二葉ファッションアカデミーの教育の根幹である。それを実現するために実践していることが以下の3点である。

1. 学校が目指す職業人を育成すべく、より実践的な企業連携。
2. 「八王子ファッション協議会」との関わりを十分生かした素材教育を産（職人）との連携で行い、リアルな経験は将来の職業観が養われている。
3. 学校品質改善計画（5カ年）は常にPDCAサイクルで見直されるよう整備されている。

また、教育理念を玄関に掲げ、学生への浸透を図っている。言葉として浸透していない点はあるものの、少人数制クラス編成で教育の理念は各学生に周知されていると判断できる。

大項目 2 基本項目

中項目 1 募集

③優れている ②満たしている ①課題あり

募集要項には定員、学費、出願期間、選考方法などが明記され、ホームページでも同様の情報が公開されている。広報活動は一部学校法人全体で行い、効率的且つ戦略的に行えるよう広報担当者を最小限に抑え、広告媒体への出稿も限定するなど、効率的な募集活動を行っている。

年間 30 回以上におよぶ体験入学は数名の来場というケースが多く、入学希望者にその場で希望を聞き、オーダーメイドの体験学習を実施している。パーソナルな対応を重視し、入学後のミスマッチを防いでおり、学生の満足度につながり、退学者の減少の大きな要因になっていると考えられる。

中項目 2 運営

③優れている ②満たしている ①課題あり

学校法人全体の組織構成は全てを正しく運営する整備がされ、年度毎の中長期事業計画も検討されている。また、BSC の考え方を取り入れた目標管理評価制度をもとにした人事規程等も整備されている。

学校長の強いリーダーシップのもと戦略的経営方針を導入し、常に意識できるよう全職員の名札に記載され、また、各個人の行動目標に落とし込まれている。三年前に導入のため、定期的に部門責任者のマネジメント能力を養成する研修制度を検討し、成果をあげることが期待したい。

校務分掌により、少数の職員で担当を明確にされているが、入学生の確保は全職員で考え取り

組むなど、適切な学校運営が行われている。教員については専門知識のみならず、少人数クラス担任制の利点を生かし、学生を第三者的に見ることのできる教員の資質も重視されている。さらに個人の目標を設定し、評価を行うなど、授業運営も適切に行われている。

情報システム化については必要なシステムだけの導入に留まっているが、学校の規模を斟酌すると適切であると考ええる。

中項目 3 財務情報

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

職業実践専門課程の認定要件である、財務諸表（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表）はホームページにより公開されており、認定要件を満たした適切な学校運営が行われている。学校法人（古屋学園）として中長期的な財務の安定化を目指しており、平成 22 年度より翌年度繰越超過を続けている。

基本方針として学校の拡大は考えられていないため、既に行われている、財務、募集、設備等における製菓・栄養分野の系列校との一体運営をすすめ、さらに効率的且つ適切な経営が行われることを期待する。

大項目 3 教育活動

中項目 1 教育目標・人材育成像

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

身につける能力や養成しようとする職種は職業実践専門課程の基本情報は勿論、入学案内や学校運営計画に明記されている。また 2 年時より専門的な職種を目指した、テクニカル・デザイン、ビューティー・スタイリスト、ビジネス・ショップの 3 コースに分かれることにより、職域に応じた専門的なカリキュラムを履修できる仕組みとなっている。また教育課程編成委員会の他、連携企業である八王子ファッション協議会や全教員の企業訪問などにより業界から育成する人材像のニーズを反映させている。

カリキュラムは基本に重点を置いたオーソドックスな構成であるが、実践的な連携授業や特別講座、後述するオリジナルショップ「二葉ファッションマルシェ」の運営や JFW への参画などにより、特色あり、且つ過不足ない内容となっている。

中項目 2 活動方針・計画

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

学校長統括のもと、教育理念と育成像は教職員へ明確に伝わっている。各学科の目標はカリキュラム、シラバスにより明確にされ、学生に周知されるよう整備されている。

「八王子ファッション協議会」との関わりを重視し素材教育を産（職人）との連携で行い、より実践的なコラボレーション授業は、二葉ファッションアカデミー独自の連携授業だと判断できる。地域密着型の実践的な授業は専門人材育成には非常に効果的であり、評価できる。またコラボレーション授業を通じて将来の就職につながることを期待したい。

連携授業関係書類については、企業連携協定書等は正しく執り交わされ、職業観を育成する授業時数も実習を中心に 35 時間確保されており有意義な連携であると感じた。

中項目 3 教育課程編成委員会

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

教育課程編成委員会は連携企業講師が委員として参画しており、教育課程の改善や授業の工夫について議論され、次年度のカリキュラムに反映されるよう整備されている。すでに今年度 2 回開催し、教育課程編成委員会の実施基準を全て満たしている。来年 3 回目の開催を予定しており、積極的に学外からの提言を受け入れる姿勢がうかがえる。また委員を学内イベントに招待するなど、学生を身近に感じてもらい、提言を行いやすい配慮も行っている。

ファッション業界について大局的な見地からの提言ができる委員が参画することにより、さらに教育課程の改善が図られると期待される。

中項目 4 連携授業と連携教育

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

八王子ファッション協議会との連携授業は教育理念の一つである素材教育を重視した内容となっている。協定書、計画書により、企業の意見が反映され、成績評価を行っている。学生に負担なく、また実践的に学べるよう実習時間の確保や終了後学生が自己評価を行っている点も評価できる。

連携授業にあたり、理念、目的の周知やマナー教育は実施されているが、学生の意欲について企業からの指摘があったと報告されている点は課題であるが、学校として改善点を把握され継続的に学生指導を行っている。

学科の目標とする職種での連携教育（希望職種での実習）を望む学生のニーズを反映させているかという点について改善の余地があるものの、地域とのつながりを重視した学校らしく、地元企業との密接な連携教育が充実している。

中項目 5 目標の設定

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

商品企画、品揃え、販売にいたるまで、ファッションビジネスと専門職業人の育成を意識したオリジナルショップ「二葉ファッションマルシェ」の運営は、商品開発能力育成やコミュニケーション能力育成は実践的であり、即戦力育成に効果的である。グローバル人材育成を意識した語学授業の徹底、より実践的な素材教育を重視した連携授業など、学年に応じた教育到達レベルはシラバスに記載され、目標達成のための個別指導が充実しており、自主性涵養という課題はあるものの、手厚い学生支援が教員から明確に行われている。

中項目 6 教育内容・評価等（共通項目）

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

デザイン素材理解の向上は連携授業により、またコミュニケーション力と協働力、プレゼンテーション力と企業倫理や法令順守についてはオリジナルブランドショップの運営により取り組んでいると認められる。

オリジナルブランド「ハハ」は商標登録され、JFW（ジャパンファッションウィーク）に参加していることはファッション感覚涵養の機会であると同時に、非常に実践的教育であり、評価できる。

グローバル教育についてはネイティブの英語講師による授業が展開され、作品展示では英語併記のキャプションをつけるなど、ファッション業界で使用する日常英語を重視した講座が導入されている。

以上の点から少人数制教育の特色を生かした多様な教育内容が盛り込まれており、優れていると認められる。

中項目 7 教育内容・評価等（個別項目）設置学科に応じて評価項目を選択する

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

全ての職種に対応するコース編成になっている。単独の科目ではないが、必要とされる教育はカリキュラムに盛り込まれている。特長としては以下の通りである。

（企画デザイン職）

- ・作品・商品イメージを具現化するために必要なスキルを身に付ける授業が充実している。
- ・ファッション造形やパターンメイキングで常に素材を意識した授業展開がなされている。

（技術職）

- ・パターンメイキングの授業では多様なデザインに対応できる力を養い、生産性の効率を重視した授業が行われている。

- ・人間の骨格や筋肉、動作特性を重視したパターンメイキング教育がなされている。
(縫製職)
- ・デザイン画をより忠実に具現化するための縫製テクニックの修得がなされている。
(販売職)
- ・「二葉ファッションマルシェ」を通して授業で習得した知識や技術の検証が行われている。
- ・オリジナルブランド運営で企画された商品を通して、製作から納品、検品、販売までの一気通貫の実践教育がなされている。
(ビジネス総合職)
- ・オリジナルブランド運営に於いて、実践型（体験型）専門人材育成が行われている。
(スタイリスト職)
- ・設定したテーマをもとに、ヘアメイクから服のコーディネートまでスタイリングされたものを、カメラワークを通してヴィジュアルプロモーションとして発表する機会が工夫されている。

中項目 8 特色ある教育

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

実践的な学生オリジナルブランド「ハハ」は商標登録され、ブランドを運営することにより、マーケットリサーチ、商品企画、デザイン、製造における知識や技術を習得し、「二葉ファッションマルシェ」での販売、広報までの実践教育を通じて、ファッションビジネスメソッドの根幹の教育が成されている。

オリジナルショップにおいては、グローバルな対応を想定した商品企画や国別の接客アプローチを考えるなど、グローバル教育も意識した取組みが行われ、二葉ファッションアカデミーの理念である「グローバルなスペシャリスト」と「職業人としての自立」を促す仕組みも注目できる。

中項目 9 教育設備

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

各実習室で使用されるマシン、ボディは原価償却時期を設定し、時期が来ると希望者へ譲渡するなど、常に新しい環境づくりをする整備を行っている。CAD・CG は実現場で使用されている機種が取り揃えられている。スタイリング関連備品やメイク関連設備等も充実しており、且つ有効に利用されている。「二葉ファッションマルシェ」は実店舗であるため、同等の設備が完備されている。（店舗に学生が常駐ではないが、定期的に時期を定め、学生が運営にあたっている。それ以外は職員の対応により、毎日開店している）

学生数や学校の規模の関係から、図書設備等に課題はみられるものの、カリキュラム遂行上必要な設備は整備され、染色等については連携授業として企業の設備を活用するなど工夫されている。

大項目 4 学習成果

中項目 1 就職・就職率

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

企業訪問により継続した求人を得るよう努力しており、それをキャリアガイダンスに反映させており、130 社 620 名の求人があり、就職先は充実している。各学科の担任と就職課の連携により、個別指導を行うなど内定率の向上に努めている。

就職実績は販売職が主体であり、科の目的に沿った企業、職種への就職についてはやや課題があると言える。実情としてアパレル産業構造の変化や、学生の職業意識や能力が企業側の求める人物像と乖離するといった社会背景が影響していると考えられる。

求人サイトを利用した就職活動が普及し、全ての学校が同じ情報を得られるようになってきたが、更なる工夫に期待したい。

中項目 2 資格・資格取得率

3 優れている 2 満たしている ① 課題あり

各学科・コースの目指す資格が定められており、積極的な取得が推奨されている。運営計画では合格率 80% を目標に掲げ、パターンメイキング検定、洋裁技術検定、ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、メイクアップ技術検定の 5 つを取り組むべき検定と位置付けている。受験者のいる検定試験については補講制度があり、総じて目標を達成している。

検定受験は学生の自主性を重視しており年々減少傾向である。今後は国家資格のなりファッション業界において客観的な能力をはかる検定試験の意義は大きく、学習の習得レベルの確認をはじめ、資格取得の意義を説き受験を喚起する対策が必要と考える。

中項目 3 成績評価・単位認定等

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

教務規程により明確に定められている。また教員間で意見交換を行い、感性についての評価基準の公正化に努めている。

各教科の特性により試験、作品評価、出席、学習態度等の評価比重は一律ではないが、シラバス等で評価基準を提示することを検討している。

基準の制定については課題であるが、退学者を出すことなく、学校運営が行われていることに注目したい。

中項目 4 学習成果

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

学生アンケートを実施し、学校生活全般についてのアンケートを行っている。結果は全ての教員で共有され、広報、教務、就職と幅広い範囲で活用されている。

全体として満足度は高く、実地調査における学生からの聞き取りにより、教員のパーソナル且つ丁寧な対応のもと、意欲を持って学習に取り組んでいることが評価できる。

近年退学者がいないことから無理なく単位を取得できる環境が整っていると言え、フォロー体制は万全であるが、競争や発展的学習を期待する学生への対応を充実化することが、今後の学習成果向上につながると期待される。

中項目 5 卒業生社会的評価

3 優れている 2 満たしている ① 課題あり

若年者の早期離職は社会問題とも指摘されるが、二葉ファッションアカデミーにおいても3年以内に約半数の学生が離職していることが課題と言える。また同窓会は組織されておらず、80年の伝統ある学校として課題である。

卒業生の社会的評価は企業訪問等を通じ把握されているが、ヒアリングが主体であり、体系的な情報収集が望まれる。また就活サイトや自己開拓による就職先での評価把握に努めることでより客観的な卒業生評価を把握できると考える。

卒業生の就職相談、対応は来校する学生に直接行なわれている。

大項目 5 教員の質の保証

中項目 1 教員・教員組織

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

専任8名、非常勤5名により運営され、校務分掌により組織化されている。専任教員はパターン、縫製、ビジネス、色彩など複数科目を担当し、幅広い知見と指導力を身につけていると認められる。英語授業においてはネイティブの非常勤講師を採用するなど、科目の目的に沿った人材確保も適切に行われている。

各科、授業科目間の連携については、単科（専攻科等をのぞく）による運営、且つ担任制を採用しており教務会議が定期的に開催され、横串での確認は取れている。

中項目 2 教員評価

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

学校満足度調査を行い、評価の把握に努めている。教科別アンケートや意見箱の設置を次年度から実施予定であり、今後の成果を期待したい。理解し易い授業であったか、学生の相談にしっかり対応できたか、という点については、学生からの聞き取りにより、「何でも言える環境」であり、適切であると考えられる。

学生満足度調査の統計も「先輩・後輩・友人関係」「教職員」「行事・イベント」について高い値を確保しており、円滑な学生生活が行われ、中途退学者がほとんどいないという実績につながっていると考えられる。

中項目 3 教員研修

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

専任教員について、教員研修規程により夏期に 5 日間の研修を義務付けている。自らの専門分野の研修先を設定し、研修で得た知識や技能は他の教員との情報共有を行い、授業等を通じて学生へフィードバックさせる仕組みとなっている。また研修成果については教員研究発表会によりその成果を報告し、全教員で研修内容の実績を共有することができるようになっている。

研修先や自己研鑽課題を上司との面談により、明確化することが今後の課題と考えられるが、上記の実績より認定要件を満たし、適切な運営が行われていると認められる。

大項目 6 学生支援

中項目 1 就職

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

各科担任と就職課の連携に加え、個別相談や専任教員によるキャリアガイダンス講座を実施しており、就職スキルの向上を図りつつ活動を促していると言える。年間 40 社の企業訪問による求人開拓と 130 社 620 名の求人等により、求人確保、指導については適切である。しかし、就職実績は販売職が主体であり、科の目的に沿った企業、職種への就職についてはやや課題があると言える。実情としてアパレル産業構造の変化や、企業が求める人材像、学校が育てたい人材像、学生がイメージする社会人像が、それぞれが異なっている現状が影響していると考えられる。

求人サイトにより企業情報を得ることができるようになったが、独自の就職資料の整備や、専門職への就職実績を充実されることが今後の課題であると考ええる。

中項目 2 中途退学への対応

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

昨年度は中途退学者が 0 名であり、担任制によるパーソナルな学生指導が退学者低減に大きな効果を挙げていると考えられる。退学理由の変化に対応し新しい事象を予測しながら指導を行っているが、よりきめ細やかな指導の必要とされる高等課程運営のノウハウが活かされていると考えられる。

近年経済問題による退学相談が増加していると報告されているが、退学者のいない点から適切に対応していると考えられる。

中項目 3 学生相談

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

担任による学生相談により昨年度退学 0 名を実現している。専任カウンセラーが学園として（同学校法人の栄養、製菓系学校を含め）配置されている。また週 1 回学生・生徒相談室を開設、若手教員の対応により話しやすい環境を作っている。

専門的な相談についても校務分掌により担当教員が明確であり、スムーズに担当教員に引き継ぐことができる体制であると言える。

中項目 4 学生生活

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

独自の奨学金制度は無いが、無利息での延納、分納に対応し支援している。

日本学生支援機構や提携ローンの情報も募集要項や HP で情報提供を行っている。

学校設置基準に沿った健康診断が行われ、学生のニーズに合わせたワンルームタイプの寮を整備するなど適切な運営が行われている。二葉ファッションアカデミーでは多摩地区における募集活動を重視し、積極的な留学生募集をおこなっていない。また課外活動の希望が見られないことから、現状としては支援体制を整えていない状況である。

上記のことから更なる学生支援体制に期待するものである。

中項目 5 保護者との連携

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

学校行事等については書面による案内を出し、できる限りの参加をお願いしている。また学習態度の変化があれば、すぐに保護者と連絡をとり、状況把握と改善に取り組んでおり、適切であると考えられる。

中項目 6 卒業生・社会人

3 優れている 2 満たしている ①課題あり

同窓会組織が未整備である。卒業後 3 年以内の離職者が 50 パーセントを超える状況から卒業生に対するキャリアコンサルティング等の場を設定するなど、定着率の向上が期待される。

就職先のミスマッチに悩み来校した卒業生の支援や学校施設利用など、いくつかの事例が見られるものの、相談および再就職支援の制度化が期待される。

業界の活性化を目的とした団体「東京・多摩ファッションネットワーク」を運営し、卒業生に情報提供を行っているが、今後の発展に期待したい。

大項目 7 教育環境

中項目 1 防災・安全管理

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

防災組織が整備され、自衛消防訓練も実施している。地域で行う消防訓練にも積極的に参加し、適切であると考ええる。

校舎は新耐震基準施行以降に新築されたもので安全性は高い。

東京都においては義務付けられている水、食糧等も備蓄され、管理方法も問題ない。地下室での保管を不安視しているものの、現段階では当所の保管が適切な方法である。

通常授業等における怪我等に備えて、栄養、製菓系学校を含めた学校法人として近隣の開業医を校医とし、万全の態勢をとっている。

大項目 8 内部質保証

中項目 1 関係法令

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

専門学校設置基準や関係法令を守り学校運営が行われている。職業実践専門課程認定要件である学校関係者評価が行われ、その評価の内容も問題が見当たらない。

中項目 2 個人情報

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

学生の個人情報については規程を整備の上、漏洩の無いように厳重に管理を行っている。「二葉ファッションマルシェ」で取得された顧客情報は年度末にデータ消去を行うことにより個人情報保護を徹底している。学生間における SNS 等を利用したコミュニケーションにおける情報の漏洩は危惧されており、日ごろよりモラル指導を行い、意識向上に取り組んでいる。ラインをはじめ

とする様々な通信アプリが氾濫している現状について、学校としてどこまで関わることができるか苦慮している現状が窺える。

上記より学校の持つ個人情報 は適切に管理されており問題は無い。

中項目 3 学校評価

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

自己点検・評価および学校関係者評価が実施され、その結果はいずれも HP に公開されている。学校関係者評価委員は職業実践専門課程の連携企業より委員が参画しており、二葉ファッションアカデミーの現状を理解した委員による評価という点で信頼できるものである。自己点検評価と学校関係者評価の乖離も少なく、職員が自校の現状を客観的にとらえていると推測できる。

学校品質向上計画を策定、実行し、自己点検によって抽出された課題への対応がみられることから PDCA サイクルが機能していると考えられる。

中項目 4 情報公開

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

前項目で記載した通り、HP により情報が公開され、二葉ファッションアカデミーのトップ画面からスムーズに遷移することができる。職業実践専門課程の基本情報、財務諸表の公開も同様であり、適切であると言える。

広報の視点で見ると、学科編成やオリジナルショップ情報など受験層へ訴求すべき情報が整理され、更新頻度も高い。シンプルながら必要な情報が網羅され、適切な情報公開であると言える。